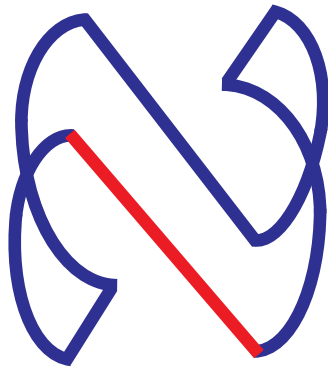


令和 6 年度
(2024 年度)

公立大学法人沖縄県立看護大学
自己点検・評価検討委員会報告書
＜専任教員と委員会の活動報告＞



公立大学法人沖縄県立看護大学

1 研究, 社会及び学内教育活動業績

1) 制作要件

令和6年度の専任教員の「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」の一覧である。

(1) 各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

(2) 職位名等は入れず, 氏名のみの表示とする。

2) 活動業績掲載順

【教養科目】

自然科学・情報科学系	栗島 一博 ……1	小児保健看護	上原 和代 ……33
社会学・外国語	山口 賢一 ……3		鈴木 ミナ子 ……35
外国語	山城 綾子 ……5		屋宜 佳成 ……37
			中村 優花 ……38

【専門教養科目】

解剖生理学・臨床医学	佐伯 宣久 ……6	成人保健看護	謝花 小百合 ……39
			赤嶺 伊都子 ……40

【専門科目】

基礎看護	金城 忍 ……7		大城 真理子 ……42
	宮里 智子 ……8		平良 由香利 ……45
	栗原 幸子 ……9		宮城 裕子 ……47
	山川 和歌子 ……10		源河 朝治 ……48
			宇地原 大海 ……50

精神保健看護	瓜崎 貴雄 ……11	老年保健看護	田場 由紀 ……51
	伊波 良剛 ……13		山口 初代 ……53
	星 敬子 ……14		兼島 利奈 ……55
			宮里 紋子 ……56

地域保健看護	牧内 忍 ……15		
	知念 真樹 ……17	島嶼保健看護	佐久川 政吉 ……57
	岡崎 実子 ……19		浦添 美和 ……59
	長濱 直樹 ……21		

	池本 温美 ……23	在宅保健看護	砂川 ゆかり ……61
			永野 佳世 ……63

母性保健看護・助産	賀数 いづみ ……25		
	井上 松代 ……26		
	知念 久美子 ……28	別科助産専攻	西平 朋子 ……65
	下中 壽美 ……30		大城 早苗 ……67
	佐次田 早苗 ……32		嘉陽田 友香 ……68

【学長】

神里 みどり ……68

2 活動報告掲載準

1) 制作要件

令和6年度の各委員会の活動の一覧である。

- (1) 各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

全学自己点検・評価検討委員会	71
危機管理委員会	72
情報セキュリティ委員会	73
人事委員会	74
大学広報委員会	75
衛生委員会	76
入学試験委員会	77
ハラスメント防止・対策委員会	78
研究不正防止計画推進委員会	79
研究・研修委員会	80
紀要編集委員会	81
研究倫理審査委員会	82
地域連携協働センター運営委員会	83
沖縄島嶼保健看護協働センター	84
国際交流室運営委員会	85
教務委員会	86
実習専門部会	88
学生委員会	90
学術情報委員会	92
別科助産専攻運営委員会	93
研究科教務委員会	95
研究科入学試験委員会	97
IRワーキンググループ	99

3 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧

(令和5年度・令和6年度・令和7年度)	100
---------------------	-----

栗島一博

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 栗島一博, 間山一枝, 古賀修治, 本田純久, JAHNG Doosub. (2024). ICT 教具 Key Words Meeting を用いた授業実践に基づく中学校教育での ICT 活用の検討. バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 26(2), 1-9.
- 2) Lee, S., Kurishima, K., Jahng, D., Wagatsuma, H. (2024). Personalized Feedback in Formative Assessment Support System “Key Words Meeting” for Encouraging Motivation of Learners and Monitoring Their Performance in Individual Classrooms. ICIC Express Letters, 18(7), 731-738.

2. その他論文等（報告書含む）

3. 著書

4. 学会発表

- 1) 栗島 一博, JAHNG, Doosub, 津波 勝代, 金城 芳秀. 島嶼看護経験者の語りをを用いた看護師のキャリア形成のための教材の検討. バイオメディカル・ファジィ・システム学会第 37 回年次大会, 2024 年 12 月, 東京.
- 2) Lee, S., Koga, T., Yang Y., Kurishima, K., Wagatsuma, H. A Proposal of the Data Analyzer Using KWM Activity Logs to Measure Attitudes, Motivations and Dispositions of Learners for Personalized Encouragements and Inspirational Instructions by the Instructor in Individual Classrooms. 18th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2024), 2024 年 9 月, China.

5. その他研究活動

- ・教育支援システムの研究開発、および同システムの利用履歴から得られる学習者の行動の分析

【学会等における活動】

- ・情報処理学会の会員
- ・バイオメディカルファジィシステム学会の会員

【社会活動】

- ・九州工業大学大学院：非常勤講師

【学内教育活動】

学部：疫学と保健医療情報、保健医療情報演習、看護大学ゼミナールⅠ、看護大学ゼミナールⅡ、情報学
別科助産専攻：保健情報学演習
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

情報セキュリティ委員会、大学広報委員会、入学試験委員会、学生委員会、1 年次部会、学術情報委員会、IR WG

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 栗島一博（代表研究者）基盤研究 C（2024～2026）島嶼看護経験の語りをを用いた
ノンフォーマル教育によるキャリア形成支援法の開発
- 2) 玉井なおみ（研究代表者）基盤研究 B（2024～2029）乳がんサバイバーの運動促
進に特化したオーダーメイド型アプリの開発と運動支援の検証

山口賢一

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（報告書含む）

- 1) Kenichi Yamaguchi. (2024) Making of healthy docile bodies: Roles of modern Japanese institutions promoting public health knowledge before the Pacific War in Okinawa, International Convention of Asia Scholars 13, Published Abstract.
- 2) 山口賢一ら編. (2024) 夏の台湾研修 2024 参加・視察報告 国立台北護理健康大学 2024 年伝統的漢方医学プログラム（報告書）
- 3) 山口賢一ら編. (2024) 春の台湾研修 2024 参加報告：台北医学大学 The Study Program for 2024（報告書）
- 4) 山口賢一. シンセサイザーの教育実践への活用 教養科目・専門関連科目、2024 年
- 5) 山口賢一. College students and academic integrity in nursing, The Synthesizer: A Journal and Practical Guide for Knowledge Utilization, Vol23, Number1, 2025 (draft submitted, to be published in March 2025)

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) Kenichi Yamaguchi. Making of Healthy Docile Bodies: Roles of Modern Japanese Institutions Promoting Public Health Knowledge before the Pacific War in Okinawa, International Convention of Asia Scholars 13, July-August 2024, Surabaya, Indonesia.

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・環境社会学会：研究活動委員
- ・第 69 回環境社会学会：発表抄録査読
- ・第 70 回環境社会学会：開催校担当
- ・日本社会学会：会員

【社会活動】

- ・講義：「Japanese Colonial Governance of Okinawa and Taiwan: Roles of Modern Institutions」OPCN Program for NTUNHS and TMU Students, 2024
- ・講義：「Okinawa History and Artifacts」OPCN Program for NTUNHS and TMU Students, 2024

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅠ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、社会学、家族社会学演習
別科助産専攻：研究への導入
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

入学試験委員会、研究・研修委員会、研究倫理審査委員会、国際交流室運営委員会、学生委員会、3 年次部会

【外部資金獲得】

- 1) 山口賢一（研究代表者）若手研究（2019～2022）日本による沖縄・台湾の植民統治における近代医療施設の役割

山城綾子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（報告書含む）

1) Ayako Yamashiro. (2024). Contemporary British and American Young Adult Literature in Focus: Reading Practices in Cambridge. Proceedings of IAC in Budapest, Hungary.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

1) Ayako Yamashiro. (2024, December). Contemporary British and American Young Adult Literature in Focus: Reading Practices in Cambridge. International Academic Conference on Global Education, Teaching and Learning. Budapest, Hungary.

5. その他研究活動

現代英米ヤングアダルト文学のコーパステキスト研究

【学会等における活動】

- ・ 英語コーパス学会 会員
- ・ 英語圏児童文学学会 会員
- ・ 欧米言語文化学会 会員
- ・ 社会言語科学会 会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県立看護大学公開講座「大学院受験生のための学び直し勉強会 -英語学習方法-」
2024 年 6 月

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅠ、英語Ⅰ～Ⅲ
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

入学試験委員会、教務委員会、研究・研修委員会、学生委員会、4 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

佐伯宣久

【研究活動】

1. 研究論文

なし

2. その他論文等（報告書含む）

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他研究活動

学内共同研究：看護学生の自己効力感

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 沖縄キリスト教学院短期大学：非常勤講師
- ・ 琉球大学農学部：非常勤講師
- ・ 浦添看護学校：非常勤講師

【学内教育活動】

学部：人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ・Ⅱ、疾病論Ⅰ・Ⅱ、微生物と免疫
別科助産専攻：なし

博士前期課程：実践臨床病態生理学

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程なし、博士後期課程なし

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、学術情報委員会、
国際交流室運営委員会、大学広報委員会、研究不正防止計画推進委員会、
大学公式ウェブサイト運営会議、IR ワーキンググループ

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

金城 忍

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 栗原幸子、金城忍、宮里智子、山川和歌子、山田ゆみこ、看護初学者のグループ代表技術チェックにおける看護者・患者・観察者役の学びー共通して記述した場面からー、第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月、熊本県
5. その他研究活動
現在取り組んでいるテーマ：看護技術修得を促す教育方法について

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会：会員
- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本感染看護学会：会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：看護学原論、早期体験実習（責任者のみ）、生活援助・療養援助技術Ⅰ、
生活援助・療養援助技術Ⅱ、生活援助・療養援助技術実習（9 月および責任者）、
生活援助・療養援助技術Ⅲ
博士前期課程：継続保健看護教育Ⅰ、保健看護管理・教育特論Ⅰ、
保健看護教育演習、保健看護教育実習
博士後期課程：継続保健看護教育Ⅱ
研究指導教員：博士前期課程（2 名）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者（なし）
研究員受入れ：（なし）

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、危機管理委員会、情報セキュリティ委員会、
ハラスメント防止・対策委員会、紀要編集委員会、研究倫理審査委員会、学生委員会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

宮里智子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表

栗原幸子、金城忍、宮里智子、山川和歌子、山田ゆみこ。

看護初学者のグループ代表技術チェックにおける看護者・患者・観察者役の学びー共通して記述した場面からー. 第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月、熊本県

5. その他研究活動（なし）

研究テーマ：学生から実務者への移行プロセス

看護職者のキャリア形成支援

【学会等における活動】

- ・日本感染看護学会：理事、編集委員会事務局、査読
- ・日本看護管理学会：会員
- ・日本看護科学学会：会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会：認定看護管理者教育課程ファーストレベル非常勤講師「組織マネジメント」
- ・沖縄県看護協会：認定看護管理者教育運営委員会（委員）
- ・社会医療法人仁愛会 浦添総合病院：特定行為研修管理委員

【学内教育活動】

学部：看護専門職論Ⅰ、看護専門職論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ、生活援助・療養援助技術実習

博士前期課程：保健看護管理実習、保健看護管理・教育特別研究Ⅰ、保健看護管理・教育課題研究、継続保健看護教育Ⅰ、看護管理・政策

博士後期課程：継続保健看護教育Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（3 人）、博士後期課程（なし）

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、研究科委員会、情報セキュリティ委員会、人事委員会、研究・研修委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

日本学術振興会 基盤研究(C)（一般）

「Z 世代の看護学生の学生から看護専門職への移行の経験と移行支援プログラムの検討」

令和 6 年度～令和 10 年度（研究代表者）

栗原幸子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 栗原幸子、金城忍、宮里智子、山川和歌子、山田ゆみこ。看護初学者のグループ代表技術チェックにおける看護者・患者・観察者役の学びー共通して記述した場面からー。第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月、熊本県
5. その他研究活動
 - 1) 令和 6 年度「次世代育成力」の強化を目指す看護系大学教員向けレベル別 FD 研修プログラムレベルⅤ研修「組織全体の次世代育成力を強化する FD 改革」受講

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会：教育活動委員会委員
第 34 回学術集会 理事会企画「新人看護教員のための授業づくり～技術演習の組み立てと運営に対する困りごと～」授業づくりのヒント プレゼンター
- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本看護シミュレーションラーニング学会の会員
- ・ナイチンゲール研究学会の会員
- ・千葉看護学会の会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会：第 39 回沖縄県看護研究学会学術集会 査読委員

【学内教育活動】

学部：看護学原論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助実習（10 月～11 月）、看護過程展開演習、卒業演習、看護統合実習（4 人）、看護卒業論文/看護総合演習（4 人）
博士前期課程：保健看護教育演習、保健看護教育実習、継続保健看護教育Ⅰ
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
研究指導補助教員：博士前期課程（3 人）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、教務委員会、実習専門部会、2 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 栗原幸子（研究代表者）若手研究（2019～2024）
リフレクションを取り入れた看護技術演習プログラムの構築
- 2) 斉藤しのぶ（研究代表者）基盤研究 B（2023～2026）
看護のリアリティバーチャル融合型シミュレーションプラットフォームの構築
- 3) 宮里智子（研究代表者）基盤研究 C（2024～2027）
Z 世代の看護学生の学生から看護専門職への移行の経験と移行支援プログラムの検討

山川和歌子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）
 - 1) 山川和歌子. (2024). シンセサイザーの教育実践への活用. 沖縄県立看護大学教育実践紀要, 11(1).
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 栗原幸子、金城忍、宮里智子、山川和歌子、山田ゆみこ 看護初学者のグループ代表技術チェックにおける看護師・患者・観察者葉の学びー共通して記述した場面からー 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024 年 12 月 熊本県
5. その他研究活動
 - ・ 研究テーマ：日々の業務の中での新卒看護師への指導、看護継続教育の指導者

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会：会員
- ・ 日本看護科学学会：会員

【社会活動】

- ・ 令和 6 年度 全国公立大学学生大会 企画チーム専門委員

【学内教育活動】

学部：看護学原論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、
生活援助・療養援助実習（10 月～11 月）、卒業演習、看護統合実習（2 人）、
看護卒業論文（2 人）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、学生委員会、3 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 宮里智子（研究分担者）基盤研究 C（2024～2028）
Z 世代の看護学生の学生から看護専門職への遺構の経験と移行支援プログラムの検討

瓜崎貴雄

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 瓜崎貴雄 救命救急センターの看護師を対象とした自殺未遂患者の看護についての教育プログラムの開発と評価 第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024 年 12 月 熊本県
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本精神科看護協会沖縄県支部 看護研究：査読
- ・ 日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究：査読
- ・ 沖縄県公衆衛生学会：幹事
- ・ 日本精神保健看護学会：会員
- ・ 日本看護科学学会：会員
- ・ 日本救急看護学会：会員
- ・ 日本自殺予防学会：会員
- ・ 日本人間性心理学会：会員
- ・ 日本心理臨床学会：会員
- ・ 日本総合病院精神医学会：会員

【社会活動】

- ・ 精神保健看護研究会：事務局
- ・ 日本精神科看護協会沖縄県支部 精神科看護研修会「看護研究」：講師
- ・ ボランティア活動：沖縄県立総合精神保健福祉センター 自死遺族の「分かちあいの会」：運営参加・支援

【学内教育活動】

学部：精神保健看護Ⅰ・Ⅱ、人間関係論、臨床心理、看護過程展開演習、精神保健看護演習（9 月～2 月）、看護卒業論文（1 人）、看護総合演習（3 人）、早期体験実習（5 日）、保健看護包括実習（責任者のみ）、精神保健看護実習（責任者のみ）、看護統合実習（4 人）

博士前期課程：看護コンサルテーション論、地域・精神保健看護特別研究Ⅰ、地域・精神保健看護課題研究

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（2）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（1 人）

研究員受入れ：1 人（科研費取得者）

【学内委員会活動等】

危機管理委員会、ハラスメント防止・対策委員会、教務委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 瓜崎貴雄（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）救急医療に携わる看護師向けの自殺未遂患者に対する看護教育プログラムの開発と評価

伊波良剛

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）
 - ・ 沖縄県立看護大学 精神保健看護領域研究会 年 3 回実施

【学会等における活動】

- ・ 日本精神保健看護学会の会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県立看護大学 精神保健看護領域研究会 事務局
- ・ 子どもの居場所くちやぐあ〜ハウス 北部ツアー看護師引率ボランティア
- ・ 琉球大学医学部保健学科 非常勤講師
- ・ JOCA 沖縄非常勤講師

【学内教育活動】

学部：島嶼・国際保健看護実習、国際保健看護、精神保健看護Ⅰ・Ⅱ、精神保健看護演習（9 月～2 月）、看護卒業論文、看護総合演習、保健看護包括実習、精神保健看護実習、看護統合実習、看護統合実習、看護卒業研究

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：なし

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、4 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

星敬子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - ・ 沖縄県立看護大学 精神保健看護領域研究会 年 3 回実施

【学会等における活動】

- ・ 日本精神保健看護学会の会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県立看護大学 精神保健看護領域研究会 事務局

【学内教育活動】

学部：保健看護包括実習（10 日）、精神保健看護Ⅰ・Ⅱ、精神保健看護演習（11 月～2 月）、精神保健看護実習（11 月～2 月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

1 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

牧内忍

【研究活動】

1. 研究論文

Shinobu MAKIUCHI. Perceived susceptibility to lifestyle-related diseases among male taxi drivers in Okinawa, Japan. JJHHE 21 巻 2 号 2025 年 3 月（掲載予定）

2. その他論文等

沖縄県立看護大学教育実践紀要 第 11 巻 2 号

領域及び委員会で行っている地域活動について

特別企画 保健師を対象とした「事例検討会」の取り組み 牧内忍（地域保健看護）

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

5. その他研究活動

KODAMA Toyohiko, HARADA Noki, UEDA Ai, MAKIUCHI Shinobu, IGARI Takashi, OHTA Rie, MITARAI Midori, MATSUURA Kencho, COVID-19 and nurses' well-being exploring initiatives for staitiy. Jouna of UOEH.(投稿中)

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本健康教育学会、日本健康学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、の会員

【社会活動】

- ・沖縄市役所 介護認定審査会 第 13 合議体委員長

【学内教育活動】

学部：身体活動論、身体活動論演習、早期体験実習、保健医療情報演習、ストレスマネジメントと健康教育、地域保健看護Ⅰ～Ⅲ、地域保健看護演習、保健看護包括実習（4 月～7 月）、地域保健看護実習Ⅱ（9 月～10 月）、看護統合実習・看護総合演習（4 人）

大学院：博士前期課程：特別研究Ⅰ、疫学と保健統計Ⅰ、ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ

研究指導教員：博士前期課程（2 人）

研究指導補助教員：博士前期課程（2 人）

研究計画検討会 研究指導教員（1 人）

研究結果検討会・論文審査の副査（1 人）

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（2 人）

研究員受入れ：1 人

【学内委員会活動等】

衛生委員会、地域連携協働センター運営委員会、学生委員会、2 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

1) 共同研究者 基盤研究 B (2022～2026)「エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発」(研究代表者：松浦賢長)

知念真樹

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

- 1) 藤井まい, 知念真樹. (2025). 在留外国人の医療・妊娠・出産時の課題におけるコロナ禍での経年変化と支援ニーズ ― 大規模調査データの経年分析 ―. 医療福祉研究. 17, (印刷中)

2. その他論文等（報告書含む）

- 1) 知念真樹. (2024). 沖縄の地域特性を生かした島嶼・国際保健看護実習. ともしび, 48, 11-12
- 2) 知念真樹. (2025). 小離島で働く新任保健師に向けた研修会の実施. 教育実践紀要, 11(2), (印刷中)

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 知念真樹. 在留外国人高齢者の医療・介護の困難感やニーズに関する研究の動向についての文献検討, 第 13 回日本公衆衛生看護学会学術集会 2025 年 1 月 愛知県
- 2) 平谷柚月、上原健司、宮城春音、伊本剛、新垣さと子、糸洲名子、森近省吾、知念真樹、沖縄県南部保健所精神保健班における新任保健師の地域診断に関する実態・意識調査、第 54 回沖縄県公衆衛生学会 2025 年 1 月沖縄県

5. その他研究活動

神里みどり教授との共同研究：太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築

【学会等における活動】

- ・ 日本国際看護学会評議委員 広報委員
- ・ 日本看護学会学術集会抄録選考委員
- ・ 日本公衆衛生学会の会員
- ・ 日本地域保健看護学会の会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会の会員
- ・ 日本健康学会の会員
- ・ 日本国際保健医療学会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員

【社会活動】

- ・ 令和 6 年度沖縄県保健師等人材確保推進委員会委員
- ・ 沖縄県新任保健師研修会講師
- ・ 沖縄キリスト教短期大学：非常勤講師
- ・ JOCA 沖縄：非常勤講師
- ・ ボランティア活動：久米島マラソンでの救急支援
- ・ 沖縄県南部保健所 保健師研修会講師
- ・ 那覇市保健所 保健指導員研修講師
- ・ 沖縄県南部保健所 所内研究に関する指導助言

【学内教育活動】

学部：看護専門職論Ⅰ、保健医療情報演習、保健医療福祉制度、島嶼・国際保健看護実習、地域保健看Ⅰ～Ⅲ、国際保健看護、地域保健看護演習、地域保健看護実習Ⅱ（9月～10月）、保健看護包括実習（4月～7月）、看護統合実習（3人）、看護卒業研究（3人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：地域・精神保健看護特別研究Ⅰ、

博士後期課程：なし

研究指導補助教員：博士前期課程（2人）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

沖縄島嶼保健看護協働センター、国際交流室運営委員会、教務委員会、3年次部会、

【学長奨励研究】

知念真樹、浦添美和、在沖外国人高齢者の医療や介護に関する困難感の実態の把握

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

（なし）

【外部資金獲得】

（なし）

岡崎実子

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 大野理恵, 岡崎実子, 中村千穂子, 沓岐さより, 田中美智子, 川村道子, 小野美奈子.
(2024). 社会人基礎力育成を目指したアサーション講座を受講した看護学生のストレス対処力の変化の様相. 看護展望, 49(10), 82-86.
- 2) 大野理恵, 岡崎実子, 中村千穂子, 沓岐さより, 田中美智子, 川村道子, 小野美奈子.
(2024). 社会人基礎力育成を目指したヨガ講座を受講した看護学生のストレス対処力の変化の様相. 看護展望, 49(13), 69-73.

2. その他論文等（報告書含む）

シンセサイザーの教育実践への活用（地域保健看護）

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

5. その他研究活動

- 1) 孤立小型島嶼における公衆衛生看護の実践方略について

【学会等における活動】

- ・ 日本看護協会の会員
- ・ 日本地域保健看護学会の会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会の会員
- ・ 日本健康学会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員
- ・ 日本保健師活動研究会の会員
- ・ 日本アルコール関連問題学会の会員

【社会活動】

- ・ ボランティア活動：久米島マラソンでの救急支援

【学内教育活動】

学部：保健医療情報演習、ヘルスアセスメント、看護過程展開演習
保健医療福祉制度、ストレスマネジメントと健康教育、
地域保健看護Ⅰ～Ⅲ、地域保健看護演習、
地域保健看護実習Ⅱ（9月～10月）、保健看護包括実習Ⅰ（4月～7月）、
看護統合実習（3人）、看護卒業研究（3人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：なし

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

研究・研修委員会、実習専門部会、1年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

長濱直樹

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）
シンセサイザーの教育実践への活用（地域保健看護）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - ・ Daniela S. Jopp, Ph.D. Associate Professor との研究協力を経て共同研究 : BlueZone PilotStudy

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会の会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会の会員
- ・ 日本抗加齢医学会の会員
- ・ 日本応用老年学会の会員
- ・ 日本疫学会の会員
- ・ 沖縄県看護研究学会の会員

【社会活動】

- ・ ボランティア活動：神原小学校の朝活ボランティア（子供食堂：4 月～3 月週 1 回）
- ・ ボランティア活動：与儀地区防犯パトロール
- ・ ボランティア活動：識名小学校 しきなっ子まつり（公民館長ブースを補助）
- ・ ボランティア活動：県民健康まつり (2024. 11. 17)
- ・ ボランティア活動：自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント・看護職合同就職説明会 (2024. 11. 17)
- ・ ボランティア活動：URIZUN FESTA (2025. 2. 9 医師会会館)

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅡ（11 月～1 月）、保健医療情報演習（10 月）、保健医療福祉制度（5 月、7 月）、地域保健看護Ⅲ（5 月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

危機管理委員会、地域連携協働センター運営委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

池本温美

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
池本温美. (2025). 台湾研修を通じた、国際的な視野を持つ看護職者の育成と沖縄県における国際交流活動の活性化. 教育実践紀要, 11 (2)
池本温美. (2025). シンセサイザーディスカッションの教育実践への活用
3. 著書（なし）
4. 学会発表
長期研修報告「ありがとう宜野座村！市町村保健師としての経験と専門職として学び続けること」 沖縄県立看護大学 研究活動報告会 2024 年 5 月 那覇市
5. その他研究活動
執筆中「沖縄県におけるスクーバダイビングインストラクターの健康行動の実態」
「新型コロナウイルス感染症による保健所支援を通しての看護学生の学び」
共同研究「乳児の股関節脱臼の見落としゼロを目指す異常判別 AI とコミュニティスクリーニングシステムの開発：地域看護職向け超音波検査教育プログラムの評価と実装」

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会の会員
- ・ 日本産業衛生学会の会員

【社会活動】

- ・ 宜野座村役場における乳幼児健診の間診業務
- ・ 嘉手納町役場における乳幼児健診の間診業務
- ・ 宜野座村まつり、阪神キャンプにおける救護業務
- ・ 栗国小中学校 生活習慣に関する健康教育（講和）「はやねはやおきあさごはん～からだもこころもレベルアップ！～」

【学内教育活動】

学部 身体活動論、保健医療情報演習、地域保健看護Ⅰ、地域保健看護Ⅱ、ストレスマネジメントと健康教育、地域保健看護Ⅲ、保健医療福祉制度、地域保健看護演習（4 月～5 月）、保健看護包括実習（4 月～5 月）、地域保健看護実習Ⅱ（8 月～10 月）、看護統合実習（11 月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、国際交流室運営委員会、2 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

なし

賀数いづみ

【研究活動】

1. 研究論文(なし)
2. その他論文等
 - 1) 教育実践紀要 領域で行っている地域貢献の活動：2024 年度 JICA 研修生の受け入れ「日本・沖縄における看護助産教育」
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他研究活動
科研費 基盤研究 (C)「10 代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証」

【学会等における活動】

- ・日本助産学会会員
- ・日本看護科学学会会員 ・日本思春期学会会員
- ・日本母性衛生学会会員 ・日本公衆衛生学会会員

【社会活動】

- ・沖縄県助産師出向支援導入事業協議会委員
- ・令和 6 年度要保護児童対策調整機関専門職研修(児童虐待対応職員法定義務研修事業)
講師「母子保健の役割と保健機関の連携」主催：沖縄県、共催：沖縄県社会福祉協会
令和 6 年 10 月 11 日(Web 講義)、・JICA 「公衆衛生活動による母子保健強化 (A)」(日本・沖縄における看護助産教育) 講師

【学内教育活動】

学部：助産実践論(4～6 月)、助産診断・技術学(4～6 月)、
周産期保健看護Ⅱ(6～7 月)、周産期保健看護演習(11～2 月)、生涯人間発達論
(10～2 月)、卒業演習(5～12 月)、看護統合実習(10～12 月)、看護卒業論文/
看護総合演習(4～12 月)

大学院：博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ、母性保健看護演習、
母性・小児看護特別研究Ⅰ

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程 (1 人)

博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、人事委員会、研究・不正防止
計画推進委員会、研究・研修委員会、入学試験委員会、教務委員会、別科助産専攻運営
委員会、助産学専攻科設置準備 WG

【学長奨励研究】

沖縄県の不妊・不育に関する現状と課題～県内の相談業務の活動を通して～
佐次田早苗、知念久美子、賀数いづみ

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 賀数いづみ(研究代表者) 基盤研究 C (2020～2024) 10 代母親の支援必要度測定尺
度に関する実用可能性の検証

井上松代

【研究活動】

1. 研究論文

なし

2. その他論文等（報告書含む）

シンセサイザー（令和 6 年度）：母性保健看護・助産担当にて、下記文献の要約と今後の教育への活用についてまとめた。

Impact of intimate partner violence and childhood maltreatment on maternal-infant maltreatment: A longitudinal study
Japan Journal of Nursing Science, Volume 18, Issue 1, January 2021. e12373.
<https://doi.org/10.1111/jjns.12373>

3. 著書

なし

4. 学会発表

- 1) Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Itsuko Akamine, Hisami shimonaka, Izumi Shiina, Detection and Psychological Support for Intimate Partner Violence Using DS-IPV: A Case of a Mother with Mental Health Issues and Children. WAIMH 2024 Interim World Congress 5-7 June 2024 Tampere, Finland
(WAIMH: World Association for Infant Mental Health)
- 2) Midori Ohsoko, Marie Sato, Matsuyo Inoue, Hisami Shimonaka, Masaki Shinjo, Midwives' Approach to Childcare Support at a Maternity Home in Okinawa, Japan. WAIMH 2024 Interim World Congress 5-7 June 2024 Tampere, Finland
- 3) 新城正紀, 赤嶺伊都, 井上松代, 田中英夫, 妊産婦を対象とした DS-IPV のカットオフ値の再検討と臨床応用の実際 第 35 回日本疫学会学術総会 2025 年 2 月 高知県
- 4) Itsuko Akamine, Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Impact of IPV on Depression and Lifestyle Behaviors in Women' s Chronic Disease. 10th World Congress of Women' s Mental Health 5-8 March 2025 Bengaluru, India
- 5) Masaki Shinjo, Itsuko Akamine, Matsuyo Inoue, Early Identification of IPV: Role of the DS-IPV in Mental Health Assessment. 10th World Congress of Women' s Mental Health 5-8 March 2025 Bengaluru, India

5. その他研究活動

- 1) 「周産期メンタルヘルスの現場で活かしたいトラウマインフォームドケア（講師：野坂祐子）」研修会運営担当（八重山地区担当）研究分担者（科研費研究代表者：下中壽美）として：（Zoom・受付・アンケート調査・資料配布） 2024 年 7 月 6 日 那覇市・石垣市

【学会等における活動】

- ・日本乳幼児精神保健学会の会員
- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本助産学会の会員
- ・日本思春期学会の会員
- ・日本母性衛生学会の会員
- ・日本助産師会の会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：母性保健看護学Ⅰ、母性保健看護Ⅱ、母性保健看護演習（11～2 月）、基礎助産学、助産診断・技術学、看護卒業研究、保健看護包括実習（6 日）、母性保健看護実習Ⅱ（2 月）、助産実習、看護統合実習（4 人）

博士前期課程：看護倫理、母性・小児保健看護特論Ⅰ、母性保健看護演習、母性保健看護特別研究Ⅰ

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（2 名）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者（なし）

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

教務委員会、4 年次部会、別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 井上松代（研究代表者）基盤研究 C（2024～2026）IPV 被害母子の支援および加害者対策における看護職者の協働・連携への取り組み
- 2) 赤嶺伊都子（研究代表者）基盤研究 C（2021～2024）IPV 被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用
- 3) 下中壽美（研究代表者）基盤研究 C（2020～2024）助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発
- 4) 新城正紀（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）IPV 被害者発見尺度による IPV 被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用

知念久美子

【研究活動】

1. 研究論文

なし

2. その他論文等（報告書含む）

- ・佐久川政吉, 知念久美子, 西平朋子. (2025). 多良間島出身高校生へのピアサポーター「ふしゃぬふ うぐな〜り Cafe」, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他研究活動

- ・沖縄県立看護大学 教員（佐次田早苗）との共同研究：不妊治療に関わる看護職への相談内容とその対応の現状と課題～沖縄県内の生殖補助医療施設の不妊治療の相談に関わる看護職へのインタビューを通して～
- ・知念久美子 他 2 名との共同研究：離島診療所に派遣される代替看護師に求められる能力と得られた能力について

【学会等における活動】

- ・日本母性衛生学会 会員
- ・日本助産学会 会員
- ・文化看護学会 会員
- ・日本ルーラルナースィング学会 会員
- ・日本生殖看護学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員

【社会活動】

- ・沖縄県立看護大学同窓会 事務局補佐
- ・多良間島を離れた高校生を対象にした大学生のピアサポーター活動「ふしゃぬふ うぐな〜り cafe」の教員代表

【学内教育活動】

学部：ヘルスアセスメント（6 月）、保健看護包括実習（10 日）
母性保健看護Ⅰ、母性保健看護Ⅱ、母性保健看護演習（11 月～2 月）
母性保健看護実習（11 月～2 月）、看護統合実習（3 人）、看護卒業研究（3 人）
基礎助産学、助産診断・技術学、助産実習（8 月～9 月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

沖縄島嶼保健看護協働センター、教務委員会（補佐）、3 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

下中 壽美

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Itsuko Akamine, Hisami Shimonaka, Izumi Shiina, Detection and Psychological Support for Intimate Partner Violence Using DS-IPV: A Case of a Mother with Mental Health Issues and Children, WAIMH 2024 Interim World Congress, 5-7 June 2024, Tampere, Finland
- 2) Midori Osoko, Marie Sato, Matsuyo Inoue, Hisami Shimonaka, Masaki Shinjo, Midwives' Approach to Childcare Support at a Maternity Home in Okinawa, Japan WAIMH 2024 Interim World Congress, 5-7 June 2024, Tampere, Finland
- 3) Masaki Shinjo, Itsuko Akamine, Matsuyo Inoue, Hisami Shimonaka, Izumi Shiina, Early Identification of IPV: Role of the DS-IPV in Mental Health Assessment. 10th World Congress of Women's Mental Health 5-8 March 2025 Bengaluru, India

5. その他研究活動

- 1) 「周産期メンタルヘルスの現場で活かしたいトラウマインフォームドケア（野坂祐子氏：大阪大学大学院人間科学研究科 教授）」研修会開催、2024 年 7 月 6 日〔那覇市、石垣市（石垣市会場は Zoom 配信にて開催した）〕：科研費（研究代表者 下中壽美、課題番号 20K10945）により実施した。

【学会等における活動】

- ・日本看護科学会：会員
- ・日本助産学会：会員
- ・日本母性衛生学会：会員
- ・日本周産期メンタルヘルス学会：会員
- ・日本乳幼児精神保健学会：会員
- ・日本母性看護学会：会員
- ・日本小児保健協会：会員
- ・日本思春期学会：会員
- ・日本看護協会、沖縄県看護協会：会員
- ・日本助産師会、沖縄県助産師会：会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会助産師職能委員会委員
- ・沖縄周産期メンタルヘルスケア研究会副代表
- ・JICA 沖縄 2024 年度課題別研修「公衆衛生活動による母子保健強化(A)」、「公衆衛生活動による母子保健強化(C)」研修講師

【学内教育活動】

学部：助産診断・技術学、基礎助産学、母性保健看護Ⅰ、母性保健看護Ⅱ、看護過程展開演習、助産実習（8月～9月）保健看護包括実習（10日）、母性保健看護演習（11月～2月）、母性保健看護実習（11月、12月、2月）、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、3 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 下中壽美（研究代表者）基盤研究 C（2020～2024）助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発
- 2) 新城正紀（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）IPV 被害者発見尺度による IPV 被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用
- 3) 井上松代（研究代表者）基盤研究 C（2024～2026）IPV 被害母子の支援および加害者対策における看護職者の協働・連携への取り組み

佐次田 早苗

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本不妊カウンセリング学会 会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県助産師会保健指導部会委員

【学内教育活動】

学部：母性保健看護Ⅰ、保健看護包括実習（10 日）、助産実習（8 月～9 月）、生活援助・療養援助技術演習Ⅲ（10 月）、生活援助・療養援助実習（10 月）、母性保健看護演習（11 月～2 月）、母性保健看護実習（12 月、1 月、2 月）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

教務委員会（補佐）

【学長奨励研究】

1. 佐次田早苗、不妊治療に関わる看護職への相談内容とその対応の現状と課題～沖縄県内の生殖補助医療施設の不妊治療の相談に関わる看護職へのインタビューを通して～

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

上原和代

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 上原和代、神里亜実、鈴木ミナ子、中村優花. (2025). 新型コロナウイルス感染症まん延から 3 年間の保育方法の変化と工夫～乳幼児の成長・発達への影響の一考察～. 沖縄の小児保健. 52, 1-9.
- 2) 鈴木ミナ子、永島すえみ、上原和代. (2025). 発達障害児の母親が障害に関する知識をペアレント・トレーニングスキルに活用するプロセス. 沖縄の小児保健. 52, 未定.

2. その他論文（報告書含む）

- 1) Kazuyo Uehara, Aya Nakai, Akiko Kuroda, Miki Konishi. (2024). COINN Book Embraced by the Japanese Neonatal Nurses. The Japan Academy of Neonatal Nursing. International Communications Committee Journal of Neonatal Nursing, 30 (4), pp.400-401. [Council of International Neonatal Nurses \(COINN\) news page - ScienceDirect](#)
- 2) 上原和代. (2024). 沖縄小児看護実践検討会の取り組みから 2 年をふりかえって. 特集：本学の地域貢献活動の取り組み. 沖縄県立看護大学教育実践紀要 11 (2) web.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 上原和代、神里亜実、鈴木ミナ子、中村優花. 新型コロナウイルス感染症まん延 3 年目における乳幼児の成長・発達への影響－保育専門職の見立てと保育方法の工夫－令和 6 年度沖縄県小児保健協会学術集会、2024 年 6 月、沖縄県.
- 2) Kazuyo Uehara, Aya Nakai, Akiko Kuroda, Miki Konishi. Unexpected impact of the COINN Book, Neonatal Nursing: Global Perspective connecting Japanese readers with global colleagues' challenges and opportunities. (Poster). Council of International Neonatal Nurses Conference 2024. Aalborg, Denmark.

5. その他研究活動

第 33 回 日本新世辞看護学会学術集会（2024. 11 月、松本）にて 国際交流委員会企画「COINN2024 参加報告」、座長.

【学会等における活動】

- ・ 日本看護教育学会会員
- ・ 日本看護科学学会会員
- ・ 日本小児看護学会会員
- ・ 日本小児保健学会会員
- ・ 日本新生児看護学会会員：評議員、査読委員（今年度 1 件）、国際交流委員
世界の新生児看護を学ぶ抄読会、事務局、2023. 1～継続中
- ・ Council of International Neonatal Nurses：Representatives of Japan
- ・ 沖縄小児保健学会会員：学術編集委員 兼 査読者（今年度 2 件）
- ・ 研究方法勉強会、事務局、2021. 10～継続中

【社会活動】

- ・ 沖縄キリスト教学院大学短期大学：保育科、非常勤講師、こどもの保健、科目責任者
- ・ 常磐大学：常磐看護学研究雑誌、査読者（今年度 1 件）

- ・ 沖縄南部療育医療センター：研究支援、非常勤講師
- ・ 沖縄県教育委員会：沖縄県立特別支援学校における医療的ケア運営委員会委員

【学内教育活動】

学部：生涯人間発達論、早期体験実習（5 日）、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ
保健看護包括実習（5 月～7 月）、小児保健看護演習（11 月～2 月）、小児保健看護
実習（11 月～2 月）、在宅保健看護実習（5 人）、看護統合実習（4 人）、看護卒業
論文（4 人）

博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ、小児保健看護演習、小児保健看護実習
母性・小児保健看護特別研究Ⅰ、看護倫理、保健看護と研究Ⅰ
生涯人間発達論（調整）

博士後期課程：母性・小児保健看護特論Ⅱ、母性・小児保健看護特別研究Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（1 人）、博士後期課程（1 人）

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（3 人）

博士前期課程修了者（0 人）

研究員受入れ：0 人

【学内委員会活動等】

研究科教務委員会、研究科入学試験委員会、研究倫理審査委員会

紀要編集委員会（査読今年度 1 件）、沖縄島嶼保健看護協働センター、2 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

鈴木ミナ子

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 鈴木ミナ子, 永島すえみ, 上原和代. 発達障害児の母親が障害に関する知識をペアレント・トレーニングスキルに活用するプロセス. 沖縄の小児保健, 第 52 号. 2025.
- 2) 上原和代, 神里亜実, 鈴木ミナ子, 中村優花. 新型コロナウイルス感染症まん延から 3 年間の保育方法の変化と工夫～乳幼児の成長・発達への影響の一考察～. 沖縄の小児保健, 第 52 号. 2025.

2. その他論文等（報告書含む）

- 1) 鈴木ミナ子. 本学学生による A 小学校での学校支援ボランティア活動. 教育実践紀要, 第 11 巻 2 号. 2025.
- 2) 鈴木ミナ子. 本学学生による B 中学校での学校支援ボランティア活動. 教育実践紀要, 第 11 巻 2 号. 2025.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 鈴木ミナ子. 不登校傾向のあるこどもの親の養育行動の変化に焦点をあてたペアレントトレーニングの有効性について. 第 71 回日本小児保健協会学術集会. 2024 年 6 月. 北海道.

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】
（なし）

【社会活動】

- ・琉球大学医学部保健学科：非常勤講師
- ・沖縄県立那覇特別支援学校：評議委員
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター：こども支援チーム（OPT）研修会「ペアレントトレーニングとはーこどもにあった対応を一緒に考えてみませんか？ー」講師

【学内教育活動】

学部：生活援助・療養援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、小児保健看護Ⅰ・Ⅱ、保健看護包括実習（8 日）、小児保健看護演習（11 月～2 月）、小児保健看護実習（11 月～2 月）、看護統合実習（4 人）、看護卒業研究（4 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

地域連携協働センター運営委員会、教務委員会、実習専門部会、1 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 鈴木ミナ子（研究代表者）若手研究（2023～2027）沖縄県の現状に特化した思春期・青年期版ペアレントトレーニングの開発に関する研究

屋宜佳成

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・一般社団法人日本小児看護学会：会員
- ・一般社団法人日本専門看護師協議会：会員
- ・公益社団法人日本看護協会：会員
- ・公益社団法人沖縄県看護協会：会員
- ・公益社団法人沖縄県小児保健協会：会員
- ・九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会：代議員（地域・在宅看護分野）

【社会活動】

- ・沖縄県中部圏域障害者自立支援協議会 療育・教育部会：構成員
- ・沖縄市障害者自立支援協議会 医療的ケア児支援 WG：構成員（コアメンバー）
- ・うるま市障害者自立支援協議会 療育・教育専門部会：構成員
- ・沖縄小児在宅医療基金ていんさぐの会：役員
- ・NPO 法人沖縄こどもホスピスのようなものプロジェクト：運営委員
- ・北部看護学校：非常勤講師
- ・沖縄看護専門学校：非常勤講師
- ・那覇看護専門学校：非常勤講師
- ・ぐしかわ看護専門学校：非常勤講師
- ・沖縄女子短期大学児童教育学科：非常勤講師
- ・沖縄キリスト教短期大学 地域こども保育学科：非常勤講師

【学内教育活動】

学部：小児保健看護演習（1 月～2 月）、小児保健看護実習（1 月～2 月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会（オブザーバー）、1 年次部会（補佐）

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

中村優花

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

- 1) 上原和代, 神里亜実, 鈴木ミナ子, 中村優花. 新型コロナウイルス感染症まん延から 3 年間の保育方法の変化と工夫—乳幼児の成長・発達への影響の一考察—. 沖縄の小児保健, 第 52 号. 2025.

2. その他論文等（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

5. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本造血・免疫細胞療法学会：会員
- ・ 日本小児がん看護学会：会員

【社会活動】

- ・ 沖縄小児看護実践検討会：事務局

【学内教育活動】

学部：生涯人間発達論、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ、小児保健看護演習（11 月～2 月）、小児看護実習（11 月～2 月）、生活援助・療養援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、保健看護包括看護実習（5 月～7 月）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

- ・ 1 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

謝花小百合

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 前原美代子、謝花小百合：体外式膜型人工肺を装着している患者の終末期における家族に対する熟練看護師の看護実践 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 2024 年 6 月
5. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会：会員
- ・ 日本緩和医療学会：会員
- ・ 日本家族看護学会：会員
- ・ 文化看護学会：会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県准看護師試験委員
- ・ 公開講座（施設での出張講座）：看護職・介護職が行う看取り
- ・ 公開講座（施設での出張講座）：ACP 講座 もしバナゲームを取り入れて

【学内教育活動】

学部：クリティカルケア看護、緩和ケア論、早期体験実習（10 人）、
看護統合実習（4 人）、看護卒業研究（4 人）
博士前期課程：実践がん看護演習Ⅰ、実践がん看護演習Ⅱ、実践がん看護実習Ⅰ、実践
がん看護実習Ⅱ、実践がん看護実習Ⅲ、実践がん看護課題研究、成人・
老年保健看護特論Ⅰ
博士後期課程：成人・老年保健看護特論Ⅱ
研究指導教員：博士前期課程（2 名）、博士後期課程（0 人）
博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者（1 人）
研究員受入れ：0 人

【学内委員会活動等】

危機管理委員会、紀要編集委員会、1 年次部会、研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 神里みどり（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築

赤嶺伊都子

【研究活動】

1. 研究論文

なし

2. その他論文等（報告書含む）

なし

3. 著書（なし）

なし

4. 学会発表

1) Itsuko Akamine, Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Impact of IPV on Depression and Lifestyle Behaviors in Women' s Chronic Diseases, 10th World Congress of Women' s Mental Health, 5-8 March 2025, Bengaluru, India.

2) Masaki Shinjo, Itsuko Akamine, Matsuyo Inoue, Hisami Shimonaka, Izumi Shiina, Early Identification of IPV: Role of the DS-IPV in Mental Health Assessment, 10th World Congress of Women' s Mental Health, 5-8 March 2025, BENGALURU, INDIA.

3) Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Itsuko Akamine, Hisami Shimonaka, Izumi Shiina, Detection and Psychological Support for Intimate Partner Violence Using DS-IPV: A Case of a Mother with Mental Health Issues and Children. The World Association for Infant Mental Health (WAIMH), Tampere, Finland, 5-7 June 2024, Infant Mental Health Journal (2024), 45(5), September, Supplement 5.1, p277-278.

4) 新城正紀、赤嶺伊都子、井上松代、田中英夫、妊産婦を対象とした DS-IPV のカットオフ値の再検討と臨床応用の実際、第 35 回日本疫学会学術総会（2025. 2 月、高知市）

5. その他研究活動

1) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催 「次世代育成力」の強化を目指す看護系大学教員向けレベル別 F D 研修プログラム、レベル V 研修組織全体の次世代育成力を強化する F D 改革 受講（研修期間：令和 6 年 6 月～令和 7 年 2 月まで）

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会九州沖縄地方会：役員（監査）
- ・沖縄県看護研究学会：学会委員

【社会活動】

- ・第 39 回沖縄県看護研究学会学術集会学会委員として運営参加

【学内教育活動】

学部：成人保健看護Ⅰ、成人保健看護Ⅱ、保健看護包括実習、成人保健看護演習、成人保健看護実習、生涯人間発達論、看護大学ゼミナールⅢ、早期体験実習（5 日）、卒業演習、看護統合実習（4 人）、看護卒業研究（4 人）

博士前期課程：成人・老年保健看護特論Ⅰ、成人保健看護演習、成人保健看護実習、成人・老年保健看護特別研究Ⅰ、

研究指導教員：博士前期課程（1 人）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：1 人（科研費取得者 1 人含む）

【学内委員会活動等】

衛生委員会、ハラスメント防止・対策委員会、研究倫理審査委員会、教務委員会、3 年次部会、

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 赤嶺伊都子（研究代表者）基盤研究 C（2021～2024）IPV 被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用
- 2) 新城正紀（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）IPV 被害者発見尺度による IPV 被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用
- 3) 井上松代（研究代表者）基盤研究 C（2024～2026）IPV 被害母子の支援および加害者対策における看護職者の協働・連携への取り組み
- 4) 赤嶺伊都子（研究代表者）基盤研究 C（2025～2027）慢性疾患のある IPV 被害女性のセルフケアの認識と対処行動および生物心理社会的支援

大城真理子

【研究活動】

1. 研究報告

2. その他論文等（報告書含む）

- 1) 大城真理子. 2024 年度 公益信託 宇流麻学術研究助成基金 交流助成報告書
- 2) 大城真理子. 高齢者施設における看取りケア講座. 沖縄県立看護大学教育実践紀要 第 11 巻 2 号.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 平良由香利, 源河朝治, 大城真理子. 島しょ県沖縄の救急搬送に求められる看護実践：スコーピングレビュー. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2024 年 6 月, 沖縄.
- 2) 大城真理子, 源河朝治, 平良由香利. 新カリキュラムにおけるクリティカルケア看護演習の組み立てへの示唆：スコーピングレビュー. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.
- 3) 松浦麻子, 大城真理子, 佐藤聖一, 柿沼加奈恵, 氏原将奈. 看護系大学教員を対象としたジレンマとその支援に関するスコーピングレビュー. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.
- 4) 平良由香利, 宮城裕子, 源河朝治, 大城真理子. 慢性的な変化にある成人を対象とした演習における方略. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.
- 5) Mariko Oshiro, Midori Kamizato. Current state of nursing support and future suggestions for breast cancer patients living on remote islands with scarce medical resources. 8th World Academy of Nursing Science Congress (WANS), 2024 年 8 月, インドネシア.
- 6) 大城真理子, 神里みどり. 乳がんの受診遅延ハイリスク者を早期発見するための簡便なスクリーニング指標の作成. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月, 熊本.
- 7) 松浦麻子, 佐藤聖一, 柿沼加奈恵, 氏原将奈, 大城真理子. 看護系大学教員の教育活動場面で生じる教員間のジレンマ. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月, 熊本.
- 8) 木戸芳史, 田上博喜, 菅野恵美, 天野薫, 仲上豪二郎, 麦田裕子, 友滝愛, 加澤佳奈, 米澤かおり, 大城真理子. 交流集会, JANS 若手推進委員会主催 えっ！どうしたらいいの？初めての論文投稿に必要な“暗黙知”を共有しよう. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月, 熊本.
- 9) 大城真理子, 与儀淑恵. 沖縄県 A 離島における島民主体の乳がん相談の場づくり. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 2025 年 2 月, 北海道.
- 10) 源河朝治, 神里みどり, 大城真理子, 吉澤龍太, 屋比久夏生, 狩俣勇斗. 放射線療法後の晩期有害事象を有する頭頸部がんサバイバーの生活の支障を査定するための指標. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 2025 年 2 月, 北海道.

5. その他研究活動

- 1) 純真学園大学看護学部（村井孝子准教授）、九州大学大学院医学研究院保健学部門（松永由里子講師）、琉球大学医学部保健学科（豊里竹彦教授）、宮崎大学医学部看護学科（山口史剛助教）、鹿児島大学医学部保健学科（李慧瑛助教）との共同研究：若手看護研究者のキャリア充実感に関連する要因

- 2) 東邦大学健康科学部（松浦麻子助教）、国際医療福祉大学（柿沼加奈恵助教）、淑徳大学（氏原将奈准教授）、国際医療福祉大学（佐藤聖一）、との共同研究：看護系大学教員を対象としたジレンマへの支援に関するスコーピングレビュー

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会：若手研究者活動推進委員
- ・日本看護科学学会：若手の会エリア・コーディネーター
- ・日本看護科学学会：若手の会メーリングリスト登録担当
- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本がん看護学会：会員
- ・日本ルーラルナーシング学会：会員
- ・日本健康学会：会員
- ・日本看護学教育学会：会員

【社会活動】

- ・医療法人那覇西：治験審査委員
- ・医療法人那覇西：倫理審査委員
- ・沖縄がん教育サポートセンター：監事
- ・沖縄県看護協会：講義（看護研究（入門編）看護現場から見出す研究課題）（1 日）
- ・沖縄県看護協会：演習で学ぶ看護研究Ⅰ（4 日）
- ・国立療養所宮古南静園：研究講師（3 日）
- ・名桜大学：非常勤講師、科目責任者、保健統計学（16 コマ）
- ・グループホームめぐみ小禄南：公開講座（5 月 14 日、8 月 27 日）
- ・一般社団法人 沖縄県認知症グループホーム協会：研修講師（2 月 27 日）
- ・ボランティア活動：With you OKINAWA 2024 年 5 月 18 日
- ・ボランティア活動：第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 2024 年 6 月 22 日
- ・ボランティア活動：ピンクリボンアドバイザーサテライト試験宮古島 2025 年 1 月 12 日
- ・学会活動：日本看護科学学会若手の会 九州・沖縄エリア検討会企画運営

2025 年 3 月 15 日

【学内教育活動】

学部：ヘルスアセスメント、クリティカルケア看護、緩和ケア論、クリティカル緩和ケア演習（5 月～7 月）、クリティカル緩和ケア実習（5 月～7 月）、クリティカルケア看護演習（9 月～11 月）、クリティカルケア看護実習（9 月～11 月）、成人保健看護演習（1 月～2 月）、成人保健看護実習（1 月～2 月）、包括実習（2 日）、看護統合実習（4 人）、看護卒業研究（4 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：実践がん看護特論Ⅲ、実践がん看護特論Ⅳ、実践がん看護特論Ⅴ、実践がん看護演習Ⅰ、実践がん看護演習Ⅱ、実践がん看護課題研究

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

研究指導補助教員：博士前期課程（2 人）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

学術情報委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、国際交流室運営委員会、2 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

大城真理子．患者会（NPO 乳がん患者の会ぴんく・ぱんさあ）との協働プロジェクト：医療資源の乏しい離島地域における乳がんの相談の場づくり

【外部資金獲得】

- 1) 大城真理子（研究代表者）若手研究（2023～2025）
実装科学に基づいた乳がんの受診遅延ハイリスク者を特定するスクリーニング指標の作成
- 2) 神里みどり（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築

平良由香利

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 中村美鈴, 鈴木典子, 平良由香利, 橋本幹子. (2025). ルーラルナースの就労環境を含めた学習上の困難・障害と救急医療・看護に対する具体的な学習ニーズとその支援体制の検討. 日本ルーラルナーシング学会誌 (in press)

2. その他論文等 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) 平良由香利, 源河朝治, 大城真理子. 島しょ県沖縄の救急搬送に求められる看護実践: スコーピングレビュー. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2024 年 6 月, 沖縄.
- 2) 大城真理子, 源河朝治, 平良由香利. 新カリキュラムにおけるクリティカルケア看護演習の組み立てへの示唆: スコーピングレビュー. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.
- 3) 平良由香利, 宮城裕子, 源河朝治, 大城真理子. 慢性的な変化にある成人を対象とした演習における方略. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.

5. その他研究活動

研修参加: 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催令和 6 年度「次世代育成力」の強化を目指す看護系大学教員向けレベル別 FD 研修プログラムレベル V 研修「組織全体の次世代育成力を強化する FD 改革」

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会: 会員
- ・TEA と質的探求学会: 第 4 回大会 実行委員
- ・日本クリティカルケア看護学会: 第 20 回学術集会ボランティア
- ・日本ルーラルナーシング学会: 会員
- ・日本慢性看護学会: 会員
- ・日本看護学教育学会: 会員

【社会活動】

- ・国立療養所 沖縄愛楽園: 園内教育 看護・介護研究の講師 (年間)
- ・ボランティア活動: 第 51 回沖縄県中学校総合体育大会における救護 (2 日)

【学内教育活動】

学部: ヘルスアセスメント、成人保健看護Ⅰ、成人保健看護Ⅱ、クリティカル・緩和ケア演習 (6 月)、クリティカルケア・緩和ケア実習 (6 月)、保健看護包括実習 (6 日)、クリティカルケア看護演習 (9~10 月)、クリティカルケア看護実習 (10~11 月)、成人保健看護演習 (11 月~2 月)、成人保健看護実習 (11 月~1 月)、看護統合実習 (4 人)、看護卒業研究 (4 人)

別科助産専攻: なし

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

研究指導教員: 博士前期課程 (なし)、博士後期課程 (なし)

博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、研究・研修委員会、研究倫理審査委員会、3 年次部会、

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 平良由香利（研究代表者）基盤研究 C（2024~2026）
外来通院中の冠動脈疾患患者の不眠に対する睡眠衛生教育アルゴリズムの開発
- 2) 神里みどり（研究代表者）基盤研究 C（2022~2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築

宮城裕子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会：会員
- ・ 日本看護研究学会：会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県看護協会教育委員

【学内教育活動】

学部：成人保健看護Ⅱ、成人保健看護演習（11 月～2 月）、成人保健看護実習Ⅱ（11 月～2 月）、クリティカルケア演習（9 月～10 月）、クリティカルケア実習（10 月～11 月）、ヘルスアセスメント、看護過程演習（1 日）、保健看護包括実習（4 日）、看護統合実習（2 人）、看護卒業研究（2 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：なし

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、4 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 宮城裕子（研究代表者）基盤研究 C（2021～2024）孤立型離島に居住する糖尿病患者の心理的自己管理促進要因の探求的研究

源河朝治

【研究活動】

1. 研究報告(なし)
2. その他論文等(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表
 - 1) 平良由香利, 源河朝治, 大城真理子. 島しょ県沖縄の救急搬送に求められる看護実践: スコーピングレビュー. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2024 年 6 月, 沖縄.
 - 2) 大城真理子, 源河朝治, 平良由香利. 新カリキュラムにおけるクリティカルケア看護演習の組み立てへの示唆: スコーピングレビュー. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 2024 年 8 月, 東京.
 - 3) 源河朝治, 神里みどり, 大城真理子, 吉澤龍太, 屋比久夏生, 狩俣勇斗. 放射線療法後の晩期有害事象を有する頭頸部がんサバイバーの生活の支障を査定するための指標. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 2025 年 2 月, 北海道.
5. その他研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会: 会員
- ・日本がん看護学会: 会員
- ・日本看護学教育学会: 会員
- ・日本緩和医療学会: 会員
- ・日本看護研究学会: 会員

【社会活動】

- ・グループホームめぐみ小祿南: 公開講座(5 月 14 日、8 月 27 日)
- ・グリーンハウス訪問看護: 勉強会(10 月 29 日)
- ・ボランティア活動: トックリキワタ祭りでの救護班

【学内教育活動】

学部: ヘルスアセスメント、クリティカルケア看護、緩和ケア論、クリティカル・緩和ケア演習(5 月～7 月)、クリティカルケア・緩和ケア実習(5 月～7 月)、保健看護包括実習(4 日)、クリティカルケア看護演習(9～10 月)、クリティカルケア看護実習(10～11 月)、成人保健看護演習(11 月、1～2 月)、成人保健看護実習(11 月、1～2 月)、看護統合実習(2 人)、看護卒業研究(2 人)

別科助産専攻: なし

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

研究指導教員: 博士前期課程(なし)、博士後期課程(なし)

博士前期・後期課程修了者数: なし

研究員受入れ: なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、4 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

- 1) 源河朝治（研究代表者）若手研究（2022～2025）
外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発
- 2) 源河朝治（研究代表者）若手研究（2025～2027）
頭頸部がんサバイバーへの晩期有害事象の早期スクリーニングとセルフマネジメント支援

宇地原大海

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 宇地原大海 ペンダーのヘルスプロモーションモデルに基づく大腸がんサバイバーの生活習慣に関する文献検討 第 54 回沖縄県公衆衛生学会 2025 年 1 月 沖縄県
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員
- ・ 日本褥瘡学会の会員

【社会活動】

- ・ 沖縄看護専門学校：非常勤講師

【学内教育活動】

学部：成人保健看護Ⅱ、クリティカル・緩和ケア演習（5 月～6 月）、クリティカルケア・緩和ケア実習（6 月～7 月）、保健看護包括実習（6 日）、在宅保健看護実習（10 月）クリティカルケア看護演習（9～10 月）、クリティカルケア看護実習（10～11 月）、成人保健看護演習（11 月～2 月）、成人保健看護実習（11 月～1 月）、看護統合実習（2 人）、看護卒業研究（2 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、2 年次部会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

田場由紀

【研究活動】

1. 研究論文

1) 鈴木美恵, 田場由紀. (2024). 入院高齢者の地域文化行動を支える看護—島嶼地域にある病院での取り組み—, 文化看護学会誌, 16(1), 22-30.

2. その他論文等（報告書含む）

1) 田場由紀. (2024). 領域及び委員会で行っている地域活動, 沖縄県立看護大学教育実践紀要, 11.

2) 野口美和子, 大湾明美, 田場由紀, 石垣和子, 吉川千恵子, 盛島幸子, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—, 科学研究費助成事業研究成果報告書.

3) 田場由紀. (2025). 看護のひろば 自分ごととしての「老い」に向き合う—沖縄高齢者ケア研究会の活動から—, 令和 6 年度 第 48 号 ともしび, 公益社団法人沖縄県看護協会.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

1) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代. (2025). 集中治療を受ける高齢者の特性に配慮した ICU 看護師の実践, 文化看護学会第 17 回学術集会, 2025 年 3 月, 千葉市.

2) 山口初代, 田場由紀, 兼島利奈. (2025). 老年保健看護実習において学生が捉える認知症高齢者のストレングス—実習記録の分析から—, 文化看護学会第 17 回学術集会, 2025 年 3 月, 千葉市.

3) 美底恭子, 田場由紀. (2024). 最期まで島で過ごしたい希望を叶える住民のケア力, 日本ルーラルナーシング学会第 19 回学術集会, 2024 年 11 月, 山形市.

4) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 集中治療を受ける高齢者のストレングスの発揮を促す看護 心臓手術を目的に入院した 1 事例, 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 2024 年 6 月, 高知市.

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本健康学会会員
- ・ 日本老年看護学会会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会査読委員
- ・ 文化看護学会会員

【社会活動】

- ・ 沖縄高齢者ケア研究会役員
- ・ 沖縄市介護保険認定審査会審査委員
- ・ 豊見城市老人保健福祉計画策定委員会委員
- ・ 那覇市奨学生選考委員会委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合介護保険事業計画策定委員会委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合地域支援事業運営協議会委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合地域密着型サービス運営委員会委員
- ・ 沖縄県特別養護老人ホーム整備法人審査委員会委員
- ・ 沖縄県介護専用型特定施設入居者生活介護等候補事業者選定委員会委員
- ・ 沖縄県高齢者福祉対策推進協議会委員

【学内教育活動】

学部：早期体験実習（5 日）、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、老年保健看護Ⅰ、保健看護包括実習（4 月～8 月）、老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習（6 月～7 月）、老年保健看護実習Ⅱ（6 月～7 月）、老年保健看護演習（10 月～1 月）、老年保健看護実習（10 月～1 月）、看護卒業演習、看護統合実習（5 名）、看護卒業論文（5 名）

博士前期課程：保健看護と研究Ⅰ、老年保健看護実習、成人・老年保健看護特別研究Ⅰ

博士後期課程：成人・老年保健看護特論Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（2 名）、博士後期課程（3 名）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、研究・研修委員会、教務委員会、実習専門部会、4 年次部会、研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【外部資金獲得】

- 1) 田場由紀（研究代表者）基盤研究 C（2022～2025）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 2) 田場由紀（研究代表者）基盤研究 C（2019～2024）小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案
- 3) 大湾明美（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造
- 4) 比嘉憲枝（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）親子分離が青年期の発達課題である自己概念の形成に及ぼす影響
- 5) 山口初代（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—
- 6) 砂川ゆかり（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成

山口初代

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 山口初代. (2025). 要援護高齢者の就労を支援する介護予防活動のあり方, 生きがい研究, 31, 46-63.
- 2) 佐久川政吉, 山口初代, 津波勝代. (2025). 沖縄県小離島の住民で創る地域共生社会の試み (第 1 報): —住民会議で抽出された A 島の課題と強み—, 日本ルーラルナーシング学会誌, 20, 47-57.

2. その他論文等 (報告書含む)

- 1) 野口美和子, 大湾明美, 田場由紀, 石垣和子, 吉川千恵子, 盛島幸子, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—, 科学研究費助成事業研究成果報告書.

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) 山口初代, 田場由紀, 兼島利奈. (2025). 老年保健看護実習において学生が捉える認知症高齢者のストレングス—実習記録の分析から—, 文化看護学会第 17 回学術集会, 千葉市, 2025 年 3 月.
- 2) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代. (2025). 集中治療を受ける高齢者の特性に配慮した ICU 看護師の実践, 文化看護学会第 17 回学術集会, 千葉市, 2025 年 3 月.
- 3) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 集中治療を受ける高齢者のストレングスの発揮を促す看護 心臓手術を目的に入院した 1 事例, 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知市, 2024 年 6 月.

5. その他研究活動 (なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会の会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会の会員
- ・ 文化看護学会の会員
- ・ 日本健康学会の会員

【社会活動】

- ・ 沖縄高齢者ケア研究会: 会計
- ・ 沖縄県立看護大学同窓会: 役員 (2024 年 7 月まで)
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護末吉・グループホーム末吉: 運営推進会議委員
- ・ 末吉老人福祉センター: 運営委員会委員
- ・ 那覇市民生委員・児童委員

【学内教育活動】

学部: 老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習 (5~7 月、11 月、1 月)、保健看護包括実習 (4 日)、老年保健看護実習Ⅰ (4 日)、老年保健看護実習Ⅱ (5~7 月)、老年保健看護実習 (11 月、1 月)、看護大学ゼミナールⅡ

別科助産専攻: なし

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

研究指導教員: 博士前期課程 (なし)、博士後期課程 (なし)

博士前期・後期課程修了者数: なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

沖縄島嶼保健看護協働センター、教務委員会、実習専門部会

【学長奨励研究】

1. 山口初代、老年保健看護実習において学生が捉える認知症高齢者のその人らしさとその活かし方—実習記録の分析から—

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 山口初代（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—
- 2) 砂川ゆかり（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成
- 3) 田場由紀（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 4) 比嘉憲枝（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）親子分離が青年期の発達課題である自己概念の形成に及ぼす影響
- 5) 大湾明美（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造

兼島利奈

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 山口初代, 田場由紀, 兼島利奈. (2025). 老年保健看護実習において学生が捉える認知症高齢者のストレングス—実習記録の分析から—, 文化看護学会第 17 回学術集会, 千葉市, 2025 年 3 月.
 - 2) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代. (2025). 集中治療を受ける高齢者の特性に配慮した ICU 看護師の実践, 文化看護学会第 17 回学術集会, 千葉市, 2025 年 3 月.
 - 3) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 集中治療を受ける高齢者のストレングスの発揮を促す看護 心臓手術を目的に入院した 1 事例, 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知市, 2024 年 6 月.
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会の会員
- ・ 文化看護学会の会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習（5～7 月、9 月～1 月）、保健看護包括実習（8 日）、老年保健看護実習Ⅰ（4 日）、老年保健看護実習Ⅱ（5～7 月）、老年保健看護実習（10 月～2 月）、看護卒業研究（2 人）、看護統合実習（2 人）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

2 年次部会

【学長奨励研究】

1. 兼島利奈、ICU 看護師が捉える急性・重症患者の回復の兆し—高齢者の支援に焦点をあてて—

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

宮里 紋子

【研究活動】

1. 研究論文
なし
2. その他論文等（報告書含む）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
5. その他研究活動

【学会等における活動】

【社会活動】

【学内教育活動】

学部：老年保健看護演習（10 月～2 月）、老年保健看護実習（10 月～2 月）

【学内委員会活動等】

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

40 佐久川政吉

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 佐久川政吉, 山口初代, 津波勝代. (2025). 沖縄県小島嶼の住民で創る地域共生社会の試み (第 1 報): -住民会議で抽出された A 島の課題と強み-, 日本ルーラルナーシング学会誌. 20, 47-57

2. その他、論文等

- 1) 佐久川政吉. (2025). 島々から学ぶ健康と暮らしの知恵～「島嶼保健看護」の挑戦～, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号
- 2) 佐久川政吉, 知念久美子, 西平朋子. (2025). 多良間島出身高校生へのピアサポート「ふしゃぬふ うぐな～り Cafe」, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号
- 3) 佐久川政吉. (2025). 地域の伝統行事における健康活動: 事例: 八重瀬町志多伯豊年祭, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号
- 4) 佐久川政吉. (2025). 「子どもの居場所」学生ボランティアとしての地域貢献と成長, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号
- 5) 佐久川政吉. (2025). 本学の地元「与儀小学校区まちづくり協議会」との協働, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) 佐久川政吉, 安仁屋優子. 2018 年～2024 年にみられる「共同店」の新しい機能, 文化看護学会第 17 回学術集会, 2025 年 3 月, 千葉県 (優秀演題賞)
- 2) 安仁屋優子, 長嶺絵里子, 佐久川政吉. 沖縄県小離島 A 島の人・伝統文化・自然環境が織りなす共生の文化, 文化看護学会第 17 回学術集会, 2025 年 3 月, 千葉県

5. その他、研究活動

- 1) 名桜大学看護実践教育研究センター企画 沖縄県災害看護研究会 災害看護の教え方① 1 年次で学ぶ「災害看護」, 2024 年 7 月 22 日, 名桜大学 (遠隔)
- 2) 座長 中部地区医師会: 令和 6 年度中部地区 12 市町村在宅・医療連携推進事業 高齢者シリーズ研修会第 2 弾「身寄りのない高齢者支援について～あなたが頑張っていること、共有しませんか?」, 2024 年 10 月 18 日, うるま市
- 3) 座長. 第 39 回沖縄県看護研究学会学術集会 シンポジウム「経験を未来へ繋ぐ 看護の新たな挑戦」2025 年 2 月 15 日、南風原町 看護研修センター

【学会等における活動】

- ・ 日本ルーラルナーシング学会 編集委員
- ・ 文化看護学会 編集委員
- ・ 日本島嶼学会会員
- ・ 島嶼コミュニティ学会会員
- ・ 日本老年看護学会会員
- ・ 日本認知症ケア学会会員

【社会活動】

- ・ 大学コンソシアム沖縄 子ども居場所学生ボランティアセンター副センター長
- ・ 大学コンソシアム沖縄 創立 10 周年記念事業企画・運営委員会 委員
- ・ 大学発 SDGs 社会課題解決型科学技プロジェクト創出支援事業企画委員会委員
- ・ 沖縄県医療提供体制協議会・へき地医療部会 委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合 (中部) 認定審査会委員

- ・ 沖縄県病院事業局 島嶼看護体験研修講師
- ・ 沖縄県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師
- ・ 沖縄県訪問看護総合支援センター事業運営委員会 委員長
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会 理事（プライマリケア看護）
- ・ JNAPU 災害支援対策委員会 沖縄小ブロック委員
- ・ 沖縄市福祉のまちづくり推進懇話会副会長、高齢者部会長
- ・ 第 8 次沖縄市高齢者がんじゅう計画 委員
- ・ 沖縄市地域包括支援センター運営協議会会長
- ・ 沖縄市住宅政策基本計画策定協議（池原市営住宅建替事業）委員
- ・ 那覇市保健医療審議会（保健所運営分科会，地域保健感染症分科会，精神保健福祉分科会、健康増進歯科口腔保健分科会）委員
- ・ 那覇市立神原小学校 学校評議員
- ・ うるま市地域包括支援センター運営協議会委員
- ・ 金武町地域包括支援センター地域個別ケア会議スーパーバイザー
- ・ 嘉手納町第 9 期老人福祉計画策定委員長
- ・ 沖縄高齢者ケア研究会 役員
- ・ NPO 法人すむづれの会 理事
- ・ 日本リウマチ友の会沖縄支部 役員
- ・ ボランティア活動：与儀小学校区まちづくり運営協議会（拡大運営委員会、トックリキワタ祭り救護班、防犯パトロール、清掃等）、
- ・ 那覇市地域包括支援センター古波蔵との協働（高齢者介護予防教室等）
- ・ 県立嘉手納高校 2 年生「看護入門コース」離島医療・看護 非常勤講師

【学内教育活動】

学部：早期体験実習，島嶼・国際保健看護実習，看護専門職論Ⅰ，看護専門職論Ⅱ，
島嶼・国際保健看護，災害看護，在宅保健看護実習，看護統合実習，看護卒業論文
博士後期課程：島嶼保健看護特別研究Ⅱ
研究指導教員：博士後期課程（1 名），副査（1 名）
研究員受け入れ：2 名

【学内委員会活動等】

教育研究審議会，全学自己点検評価検討委員会，沖縄島嶼保健看護協働センター，地域
連携協働センター運営委員会，宮古・八重山地区保健看護人材育成推進協議会，労働基
準法に定められた過半数代表者

【外部資金獲得】

- 1) 佐久川政吉（研究代表者） 基盤研究 C（2022～2024）琉球弧の小離島診療所看護師
と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出
- 2) 安仁屋優子（研究代表者）基盤研究 C（2022-2025）離島・僻地の地縁を活かした持
続可能なベストミックス近助ケアシステムの構築（研究分担者：佐久川政吉）
- 3) 長嶺絵里子（研究代表者）島しょ・僻地の強みを活かした青年期・思春期間のピア
カウンセリング・プログラム開発（2021～2024）（研究分担者：佐久川政吉）

浦添 美和

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（報告書含む）（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - ・ 現在取り組んでいる研究：沖縄県における子育て世代外国人両親の育児状況とニーズ～育児に対する父親の役割認識と育児参加～
 - ・ Teaching Parenting the Positive Discipline Way Jan. 29-Feb. 21 2024
-Certified Positive Discipline Parent Educator-
 - ・ 学長奨励研究 共同研究者 1 件
 - ・ ラオス貧困地区若年夫婦への支援

【学会等における活動】

- ・ 日本国際看護学会

【社会活動】

- ・ 沖縄スペイン協会秘書：①せかいのおはなし第 3 回「サンジョルディが沖縄にきたよ」、②第 4 回ゴーヤ映画祭「Los ゴーヤ de おきなわ」等の企画・運営、翻訳、③スペインバレンシア地方洪水災害チャリティーイベント
- ・ スペイン語サークル運営（沖縄市）
- ・ 沖縄戦戦没者名前読み上げ 計 16 名参加
- ・ 沖縄 Positive Discipline ワークショップ：11 月、12 月、2 月開催
- ・ JICA フェスティバル（JICA 沖縄）ボランティア
- ・ 移民女性の妊娠・出産セミナー開催協力

【学内教育活動】

学部：看護卒業論文（4～12 月）
島嶼保健看護演習（4～7 月）
保健看護包括実習（4～7 月）
地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域保健看護実習Ⅱ（9～10 月）、
看護統合実習（国際）（11 月）、島嶼国際保健看護実習（11 月）
看護大学ゼミナールⅡ（11 月～翌 1 月）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：台北医科大学・台北護理健康大学 研修生 引率

【学内委員会活動等】

- ・ 沖縄島嶼保健看護協働センター
- ・ 地域協働連携センター運営委員会
- ・ 国際交流室運営委員会

- ・ 4 年次部会（9 月～）

【学長奨励研究】

- ・ 沖縄県における子育て世代外国人両親の育児状況とニーズ ～育児に対する父親の役割認識と育児参加～

- ・ 学長奨励研究 共同研究者 1 件

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

砂川ゆかり

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（報告書含む）

- 1) 野口美和子, 大湾明美, 田場由紀, 石垣和子, 吉川千恵子, 盛島幸子, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—, 科学研究費助成事業研究成果報告書.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 兼島利奈, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2024). 集中治療を受ける高齢者のストレングスの発揮を促す看護 心臓手術を目的に入院した 1 事例, 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知市, 2024 年 6 月.

5. その他研究活動

- ・研修参加：千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催令和 6 年度「次世代育成力」の強化を目指す看護系大学教員向けレベル別 FD 研修プログラムレベル V 研修「組織全体の次世代育成力を強化する FD 改革」

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会の会員
- ・日本ルーラルナースングの会員
- ・文化看護学会の会員

【社会活動】

- ・沖縄高齢者ケア研究会：広報
- ・老年保健看護研究会：事務局
- ・沖縄県立看護大学同窓会：役員（2024 年 7 月～）
- ・地域密着型通所介護事業所 こくば愛日和デイサービス：運営推進会議委員
- ・沖縄県看護協会：第 39 回沖縄県看護研究学会学術集会 査読委員

【学内教育活動】

学部：老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習（6 月～7 月）、老年保健看護実習Ⅱ（6 月～7 月）、保健看護包括実習（2 日）、在宅保健看護実習（10 月～11 月）、看護統合実習（4 人）、看護卒業論文・看護総合演習（4 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

- ・教務委員会、入学試験委員会、紀要編集委員会、4 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 砂川ゆかり（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成
- 2) 田場由紀（研究分担者）基盤研究 C（2022～2024）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 3) 大湾明美（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造
- 4) 山口初代（研究代表者）基盤研究 C（2023～2025）継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—

永野 佳世

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 永野佳世、神里みどり. (2025). 長期在宅補助人工心臓治療を受ける患者と介護者への医療と介護を含めた療養生活に関わる連携と協働—在宅支援に関する医療従事者の認識— (in press) 28 (2), 109-117.

2. その他論文等（報告書含む）

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本在宅ケア学会：会員
- ・日本移植学会：会員
- ・日本移植・再生医療看護学会：会員
- ・人工臓器学会：会員
- ・組織全体の次世代育成力を強化する FD 改革レベル V 研修（2024. 8～2025. 2）

【社会活動】

- ・沖縄県臓器移植推進協議会：広報委員
- ・沖縄県臓器移植シンポジウム：2024. 10. 26 実行委員
- ・沖縄県主催 移植推進街頭キャンペーン（県庁グリーンライトアップ）：2024. 10. 5
- ・日本移植者協議会：賛助会員

【学内教育活動】

学部：在宅保健看護実習（9 月～10 月）クリティカルケア看護演習（5 月～7 月）、クリティカルケア看護実習（5 月～7 月）、島嶼・国際保健看護実習、看護統合実習（2 人）、看護卒業研究（2 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：なし

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

ハラスメント防止・対策委員会、実習専門部会、2 年次部会、

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

平良 由香利（研究代表者）2024 - 2026 基盤研究 (C) 分担 「外来通院中の冠動脈疾患患者の不眠に対する睡眠衛生教育アルゴリズムの開発」

西平朋子

【研究活動】

1. 研究論文（なし）

2. その他論文等（なし）

- 1) 西平朋子. (2024). 領域及び委員会で行っている地域活動, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号.
- 2) 佐久川政吉, 知念久美子, 西平朋子. (2024). 多良間島出身高校生へのピアサポート「ふしゃぬふ うぐな〜り Cafe」, 沖縄県立看護大学教育実践紀要. 第 11 号.

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

5. その他研究活動

- ・ 島嶼における在日外国人母親の子育て支援
- ・ 小離島出身高校生に対するピアサポート支援体制の構築

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会誌：査読
- ・ 沖縄県の小児保健：査読
- ・ 日本助産学会会員
- ・ 日本母性衛生学会会員
- ・ 日本看護科学学会会員
- ・ 日本思春期学会会員
- ・ 日本乳幼児精神保健学会会員
- ・ 日本健康学会会員
- ・ 日本周産期メンタルヘルス学会会員
- ・ GDI（性同一性障害）学会会員
- ・ 沖縄県小児保健協会会員
- ・ 沖縄県助産師会会員
- ・ 東京 M-GTA 研究会会員

【社会活動】

- ・ 沖縄 M-GTA 研究会委員（事務局）
- ・ 小離島出身中学生および高校生への島立ち支援「ふしゃぬふ うぐな〜り Cafe」
- ・ 公開講座：「母と子に優しい防災ワークショップ」講師

【学内教育活動】

学部：なし

別科助産専攻：助産学概論、基礎助産学演習（4 月～5 月）、助産診断・技術学演習Ⅱ（4 月～7 月）、ウィメンズ・ヘルス、地域母子保健演習（5 月～6 月）、助産管理学、生命倫理、健康教育論演習（5 月～7 月）、研究への導入、助産研究（6 人）、助産実習、ウィメンズ・ヘルス実習、離島実習

博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ、母性保健看護演習、母性・小児保健看護特別研究Ⅰ（研究指導補助教員）

博士後期課程：母性・小児保健看護特論Ⅱ（ゲストスピーカー）

研究指導教員：博士前期課程（研究指導補助教員 1 人）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検・評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、入学試験委員会、学生委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

(なし)

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

(なし)

【外部資金獲得】

(なし)

大城早苗

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
- 5.
6. その他研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本助産師会：会員
- ・ 沖縄県助産師会：会員
- ・ 日本看護協会：会員
- ・ 沖縄県看護協会：会員
- ・ 沖縄県小児保健協会：会員
- ・ 日本助産学会：会員

【社会活動】

【学内教育活動】

別科助産専攻：基礎助産学、基礎助産学演習（4 月～5 月）、助産診断技術学演習Ⅰ、助産診断・技術学演習Ⅱ（4 月～7 月）、ウイメンズヘルス、健康教育論演習（5 月～7 月）、助産診断・技術学、地域母子保健、地域母子保健演習（5 月～6 月）、助産実習（8 月～12 月）、離島実習（12 月）、ウイメンズ・ヘルス実習（1 月）、助産研究（6 人）

【学内委員会活動等】

別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

嘉陽田友香

【研究活動】

1. 研究論文（なし）
2. その他論文等（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本看護協会：会員
- ・ 沖縄県看護協会：会員
- ・ 日本助産学会：会員
- ・ 日本母性学会：会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

別科助産専攻：基礎助産学、基礎助産学演習、助産診断技術学、
助産診断技術学演習Ⅱ、ウィメンズヘルス、健康教育論、地域母子保健演習（6 月）
助産実習（8 月～12 月）、ウィメンズヘルス実習（1 月）、離島実習（12 月）
助産研究（受け持ち学生 6 人）

【学内委員会活動等】

別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

なし

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

なし

【外部資金獲得】

なし

神里みどり

【研究活動】

1. 研究論文

- 1) 永野佳世、神里みどり. (2025). 長期在宅補助人工心臓治療を受ける患者と介護者への医療と介護を含めた療養生活に関わる連携と協働—在宅支援に関する医療従事者の認識—. 日本在宅ケア学会誌, Vol. 28, p105-113.

2. その他論文等（報告書含む）

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 神里みどり：特別講演、沖縄看護（島しょ看護）のこれまでとこれから、第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会、2024 年 6 月 22 日、宜野湾市.
- 2) 野田千代子、神里みどり、前田和子：ルーラル地域で働く看護職者に必要なコンピテンシーと教育プログラムの開発に向けて、第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月 9 日～10 日、熊本.
- 3) 大城真理子、神里みどり：乳がんの受診遅延ハイリスク者を早期発見するための簡便なスクリーニング指標の作成、第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月 9 日～10 日、熊本.
- 4) 佐伯香織、神里みどり、他：内分泌療法中の閉経前乳がん患者の更年期症状に関連する苦痛症状、第 44 回日本看護科学学会学術集会、2024 年 12 月 9 日～10 日、熊本.
- 5) 源河朝治、神里みどり、他：放射線療法後の晩期有害事象を有する頭頸部がんサバイバーの生活の支障を査定するための指標、第 39 回日本がん看護学会学術集会、2025 年 2 月 22 日～23 日、札幌.

5. その他研究活動

名古屋大学保健学部教員（研究代表者：佐伯香織）との共同研究：ホルモン療法中の閉経前乳がん患者の症状クラスターとマネジメントプログラムの開発

【学会等における活動】

- ・日本緩和医療学会：補完代替療法ガイドライン改訂 WPG 員
- ・日本看護系大学協議会：JANPU-NP 資格認定委員会委員
- ・日本看護科学学会誌：和文誌専任査読委員
- ・日本がん看護学会誌：専任査読委員
- ・日本看護医療学会誌：専任査読委員
- ・日本看護科学学会社員：代議員
- ・日本がん看護学会：代議員
- ・日本ルーラルナーシング学会：第 7 期理事、第 7 期評議員、広報委員長
- ・日本看護医療学会：第 8 期評議員
- ・九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会：代表理事
- ・日本看護科学学会学術集会：査読
- ・日本がん看護学会学術集会：査読
- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本がん看護学会：会員
- ・日本看護医療学会：会員
- ・日本ルーラルナーシング学会：会員
- ・日本統合医療学会：会員
- ・文化看護学会：会員

- ・ 日本在宅ケア学会：会員
- ・ 沖縄看護系大学協議会：オブザーバー参加
- ・ SCOPE: Health & Wellbeing Editorial Board member (NZ)

【社会活動】

- ・ 文部科学省：大学設置・学校法人審議会委員
- ・ 沖縄大学：外部評価委員会委員長
- ・ 那覇市立病院：評価委員会委員
- ・ 沖縄赤十字病院：地域医療支援委員会委員
- ・ 琉球大学病院学長選考委員
- ・ 日本サイコオンコロジー学会の会長企画委員
- ・ GRNEN: Global Rural Nursing Exchange Network Ambassador (USA)

【学内教育活動】

学部：専門職論Ⅰ

博士前期課程：実践島嶼保健看護特論Ⅰ、実践島嶼保健看護演習、実践島嶼保健看護実習、実践島嶼保健看護課題研究、実践がん看護特論Ⅴ

博士後期課程：保健看護と研究Ⅱ（デザイン編）、保健看護と研究Ⅱ（執筆編）

成人保健看護特別研究Ⅱ、新領域保健看護特別研究Ⅱ

成人・老年保健看護特論Ⅱ、新領域保健看護特論Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（0人）、博士後期課程（4人）合計4人

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（0人）

研究員受入れ：3人

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、人事委員会、研究不正防止計画推進委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター（オブザーバー）、宮古・八重山地区保健看護人材育成推進協議会、3人の科研費申請書作成指導（令和6年度科研費申請：3人採択）、ハワイ州カピオラニコミュニティカレッジとの交流協定締結推進

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 神里みどり（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築
- 2) 玉井なおみ（研究代表者）基盤研究B（2024～2029）乳がんサバイバーの運動促進に特化したオーダーメイド型アプリの開発と運動支援の検証
- 3) 大城真理子（研究代表者）若手研究（2023～2025）
離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴と看護援助の方略
- 4) 佐伯香織（研究代表者）若手研究（2023～2025）
ホルモン療法中の閉経前乳がん患者の症状クラスターとマネジメントプログラムの開発
- 5) 源河朝治（研究代表者）若手研究（2022～2024）
外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発

全学自己点検・評価検討委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○玉城洋、賀数いづみ、宮里智子、金城忍、佐伯宣久、
田場由紀、佐久川政吉、西平朋子、仲松則夫
事務局：金城秀明

2. 活動概要

- (1) 令和5年度自己点検評価の実施
各種委員会から提出のあった最終評価報告書について点検及び評価を行った。
- (2) 令和7年度計画の策定
新たな課題の確認や対応案を検討し、令和7年度の年度計画を策定した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 自己評価実施要領の改正に向けて検討を行った。次年度も引き続き改正に向けた最終調整を行い、当該要領の改正を実施する。

危機管理委員会

1. 委員会構成

委員：金城忍、謝花小百合、瓜先貴雄、長濱直樹、◎玉城洋、仲松則夫
事務局：金城秀明

2. 活動概要

(1) 災害発生等を想定した訓練の実施について

学生及び教職員の安全を確保するために、地震発生に伴う火災を想定した避難訓練を実施した。避難訓練後、教職員に対し水消火器を用いた実地訓練を実施した。

(2) 不審者の侵入を想定した訓練の実施について

学生及び教職員の安全を確保するために、不審者侵入対策訓練を実施した。

(3) 緊急連絡網について

緊急連絡網を整備し学内の教職員へ配布した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 避難訓練について、2年連続で負傷者の発見が遅れた。分担された各役割についての認識や意識が低いことが考えられることから、避難訓練に対する意識を向上させる方策を検討する必要がある。

(2) 事業継続計画（BCP）について、定期的に見直しを行う必要がある。

情報セキュリティ委員会

1. 委員会構成

委員：◎賀数いづみ、○佐伯宣久、金城忍、宮里智子、西平朋子、栗島一博
玉城 洋、仲松則夫、与那嶺隆 事務局：金城秀明

2. 活動概要

- (1) 情報セキュリティに関する事件・事故への即応チームである CSIRT（シーサート）の設置を継続した。
- (2) 学生向け情報セキュリティ対策実施手順を策定した。
- (3) 学生向け情報セキュリティ講習を4月に新学期ガイダンスで（県警生活安全部）実施した（受講対象者1～4年+別科助産約338人）
- (4) 情報倫理ガイドライン策定に向けて検討した。
- (5) 教職員向け情報セキュリティ講習会を2月に実施（受講率63%）、当日参加できない方への対応として録画のオンデマンド配信を実施した。
- (6) 教員用パソコンの入れ替えに向け各教員からの要望を調査し、要望と予算に見合う仕様について継続的に検討を重ねた。
- (7) 情報セキュリティ対策標準（14）情報セキュリティ評価・見直しに関する標準に基づき、情報セキュリティ対策の自己点検の調査を3月に実施した。
- (8) ICT部門の業務継続については、本学の事業継続計画（BCP）に追加する形ではなく、委員会で独自に策定する方針とした。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 事業継続計画を見直すにあたり、本学が持つ情報システムのバックアップ状況や緊急時の対応等を把握し、それが適正か確認する必要がある。
- (2) 学生向けの情報セキュリティ講習については、新入生・在学生ガイダンスで継続的に実施出来るよう、外部との連携を含めた内容の検討を行う
- (3) 情報セキュリティ自己点検の結果から課題を把握し、改善策を検討する

人事委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○玉城洋、賀数いづみ、宮里智子
事務局：金城敏彦

2. 活動概要

- (1) 人事委員会を7回開催した。
- (2) 教員公募計画（案）の審議を行った。
- (3) 教育研究費における業務内容計画等について審議を行った。
- (4) 法人職員（大学事務）の採用基準等について審議を行った。
- (5) 科研費直接経費における非常勤職員の採用について審議を行った。
- (6) 科研費直接経費における非常勤職員の採用について審議を行った。
- (7) 事務職員募集要項（臨時職員）（案）について審議を行った。
- (8) 法人職員（大学事務）の採用について審議を行った。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 引き続き規程第5条に掲げる職員の採用、人事評価、表彰などに係る審議を行う。
- (2) 個人情報を取り扱うことから、より一層の情報管理の徹底を図る必要がある。

大学広報委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、○栗原幸子、栗島一博、平良由香利、源河朝治、宇地原大海
事務局：三宅千穂

2. 活動概要

(1) オープンキャンパスの実施

7月にオープンキャンパスを実施した。初めての取り組みとして、大講義室での大学説明会に学生による三線演奏を導入しウェルカムな雰囲気を演出した。来場者は400人以上であった。

(2) 琉球大学保健学科と合同でのオンライン大学説明会を実施

6月に琉球大学との初の合同説明会をオンラインで実施した。参加申し込みは100人以上であった。

(3) キャンパスツアーの随時実施

初めての取り組みとして、8月から11月にかけて毎月参加者を募り、キャンパスツアーを随時実施した。高校生26人、保護者9人の参加があった。

(4) SNSによる情報発信

初めての取り組みとして、今年度よりSNSによる情報発信を開始した。授業風景やサークル活動、公開講座、入試の情報などを発信した。3月8日時点で、4月からの投稿数80件、フォロワー数466人となっている。

(5) 大学案内2025の作成

予算削減のため発行部数を千部減らし三千部とした。本学の魅力の紹介や、学生写真の活用により、入学希望者が本学の雰囲気を感じ取れる冊子となるようにした。

(6) かせかけ vol. 37 の作成

別科助産専攻や大学院に関する内容を追加し大学全体を広報できるよう工夫した。発行部数を2000部とした。

(7) 大学紹介ショート動画の作製

大学公式ウェブサイトで公開可能な10分程度の紹介動画を業者委託で制作した。卒業生の活躍を全面に出し、ドローン撮影による画像を取り入れるなど、視聴者を惹きつける動画を作成した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 広報活動の強化

学部、大学院ならびに別科助産専攻において優秀な学生を確保するために、広報活動を創意工夫し強化していく必要がある。

衛生委員会

1. 委員会構成

委員：◎玉城委員長、米納浩幸、○赤嶺伊都子、牧内忍、天久いつ子
事務局：仲松則夫、宮城健

2. 活動概要

- (1) 衛生委員会を月1回開催した。
- (2) あらかじめ学内にスケジュールを提示した上で職場一斉点検、年2回のクリーン作戦を実施し、計画的な不用物品の廃棄を促進した。
- (3) 職場環境における法定検査（水質検査・大気測定・電気設備・温度・照度等）を実施した。
- (4) 勤務管理システムによる出退勤打刻を徹底し、毎月の勤務状況の把握と課題整理を行った。
- (5) 年度当初に健康診断を実施した。
- (6) ストレスチェックを実施し受検率は97.6%であり、目標の90%以上を達成できた。
- (7) 全学的な休暇取得週間を設定し、教職員の休暇取得を促進した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 引き続き勤務管理システムによる出退勤打刻を徹底し、毎月の勤務状況の把握を行うとともに、課題解決への具体策を検討・試行する必要がある。
- (2) ストレスチェックの結果（集団分析）を学内へフィードバックする必要がある。

入学試験委員会

1. 委員会構成

非公表

2. 活動概要

(1) 令和7年度看護学部入学試験の実施

大学入学共通テスト、特別選抜入試ならびに一般入試前期日程入試を準備し実施した。

(2) 令和7年度別科助産専攻入学試験の実施

特別選抜入試ならびに一般選抜入試を準備し実施した。

(3) 外国人特別学生選抜の募集

外国人特別学生（外国籍を持つ学生）を選抜方法を検討し準備して募集を行った。志願者がいなかったため選抜入試の実施にはいたらなかった。

(4) 入試広報の実施

オープンキャンパスならびにオンライン企画において大学紹介や入試に関する発信を学外に対しておこなった。また、中高生に本学の関心を持ってもらうことも狙って、中高生を対象に公開講座「看護師の仕事を知ろう」を実施した。また、大学受験関連業者が主催する複数の合同説明会にも参加した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 学部一般選抜入試志願倍率の低下

令和7年度の志願倍率が1.8であったことから、これを上昇させるために何らかの方策が必要である。大学広報活動をさらに大きく展開するために、大学広報委員会の機能強化が必要である。くわえて、本学を受験したくなる大学の魅力づくりも重要な要素である。

(2) 外国人特別学生選抜の志願者獲得

今年度はじめて募集を行ったが志願者を得られなかった。日本語学校などに対する広報活動を強化すると志願者を得られる可能性がある。

ハラスメント防止・対策委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城忍、瓜崎貴雄、赤嶺伊都子、永野佳世
事務局：玉城洋、○仲松則夫、高良真弓

2. 活動概要

- (1) 外部カウンセラーを委嘱した。
- (2) 新学期や実習前にハラスメントに関するインフォメーションを実施した。
- (3) ホームページにてアンケートを実施し、さらにホームページおよび紙媒体での相談受付を実施した。
- (4) オンライン相談室を設置した。
- (5) 年度末、別科助産専攻科学生に対して授業内容、授業展開、ハラスメントの有無について話し合いの場を設けた。
- (6) 全教職員を対象にハラスメントの研修会を行い、61名が参加した。なお、当日参加できなかった職員に対し、研修会録画の視聴を促進した。また、研修会終了後及び視聴後にアンケートを実施した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 継続して、新学期や実習前のハラスメントに関するインフォメーションの実施、ホームページ、紙媒体での相談受付を行っていく。
- (2) 教職員や学生に向けて、ハラスメント防止に関する情報の周知を行っていく。
- (3) 全教職員に対して、令和6年度に実施したハラスメント防止に関する研修会の録画映像を視聴してもらい、ハラスメント防止についての理解を深めていく。

研究不正防止計画推進委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○賀数いづみ、佐伯宣久

事務局：玉城洋、仲松則夫

2. 活動概要

- (1) 競争的資金の使用ルールやそれに伴う責任を確認し、不正防止を図る観点から、教職員を対象に「研究不正防止のためのコンプライアンス研修」を開催した。また、開催後に研修に関する確認テストを実施した。
- (2) 本学の「公的研究費不正使用及び研究不正行為防止に関する規程」に基づく「研究倫理教育セミナー」を開催した。
- (3) 文科省ガイドラインに基づく「研究不正防止に係る啓発活動」として、教職員を対象に研究不正防止に関する情報提供をメールにより実施した。
- (4) 利益相反状態により生じる弊害を防止するため、利益相反管理委員会及び利益相反審査委員会を開催し、外部委員により利益相反状態に無いことを確認した。
- (5) 科研費交付条件及び「内部監査規程」に基づき、科研費内部監査を実施し、適正に処理されていることを確認した。
- (6) 本学の「研究に関する記録及び研究データの保管要綱」等に基づき、教員に対し研究記録・研究データ管理簿の提出について周知した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 今年度は、「研究インテグリティ」の取組を確保するため、利益相反管理規程の改正を行った。次年度は、「研究インテグリティ」確保の取組みを円滑に進める必要がある。

研究・研修委員会

1. 委員会構成

委員：◎賀数いづみ、○田場由紀、宮里智子、山口賢一、岡崎実子、平良由香利
事務局：玉城 洋 金城秀明

2. 活動概要

- (1) 学長奨励教育研究費の募集及び申請された研究計画について審議し、学長へ報告を行った。また、採択された研究に予算を配分し教授会へ報告を行った。
- (2) 学長奨励研究及び宇流麻学術研究の採択者に発表の場を確保するため、研究活動報告会、発表者交流会を開催した。
- (3) 教員の研究時間確保のため、研究活動に関するアンケート調査を行った。
- (4) 科研費申請者を支援するため、教員に対し「科研申請のポイント」として情報提供を行った。科研サポーターを配置し相談対応した。
- (5) 研究員の新規受入について、申請内容に関する審議を行った。
- (6) 教職員を対象に FD 研修を実施した。
 - ①テーマ：「インストラクショナルの考え方」日時：令和6年9月13日（金）
13:30～16:00 講師：鈴木克明（武蔵野大学響学開発センター教授）
対象：全教員 46 名 参加者数 17 名（参加率 37%）
 - ②テーマ：「翻訳会社を活用して英文投稿をしよう！」日時：令和6年9月26日（木）13:00～14:00 講師：山口賢一（沖縄県立看護大学 准教授）
対象：全教員 45 名 参加者数 15 名（参加率 33%）
- (7) 新任教員研修セミナーに新任教員1名を派遣した。
- (8) 寄附講座規程を整備し、寄附の受入れ及び講座設置の手続きを行った。
- (9) 研究活動推進のため、本学におけるサバティカル制度実施要綱を策定し、今年度から募集を行ったが、期間内に申請がなかった。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 研究活動推進のため、サバティカル制度等の導入を検討しているが、期間内の申請者がいなかった。制度活用が継続的課題である。
- (2) 産官学連携のための具体的方策の検討

紀要編集委員会

1. 委員会構成

委員：◎謝花小百合、○佐久川政吉、金城忍、上原和代、砂川ゆかり
事務局：砂川綾乃

2. 活動概要

(1) 沖縄県立看護大学紀要 26 号の編集

年 2 回の募集により投稿数は 6 件であるが掲載数は 1 編となっている。
投稿規程は修正したが、投稿者の修正期間が短期間のため、投稿取り下げが続いたことから、学術雑誌などの投稿修正期間を検討し、査読後の期間を「2 週間から 1 カ月」へ変更した。

(2) 教育実践紀要第 11 号の編集

2023-2024 年度の「本学の地域活動の取り組み」をとりまとめた。本企画は委員会及び領域における活動の一環として行っている地域活動及び社会活動について、それぞれの立場から振り返り、本学の社会貢献への取り組みについて、「何を継続し、何を改善するか」を立ち止まって考え、共有する機会になればと考え企画・編集した。
シンセサイザーの実践教育への活用（掲載数 8 編）は第 11 号として掲載した。

(3) シンセサイザーディスカッション（専門領域別・最新の英文文献抄読）

今年度から島嶼・在宅保健看護領域を追加し 9 領域のディスカッションにおいて、目標値（参加者数が領域教員数+2 人以上、大学院生の参加が増える）が達成できたのは 8 領域（88.9%）であった。領域教員以外の参加者が多かったのは、基礎看護で 15 名、精神保健看護で 12 名であった。在宅保健看護に大学院生（博士後期課程）が参加した。

※参加者数（領域教員数）

基礎看護：15(5)	老年保健看護：7(3)
小児保健看護：10(3)	成人保健看護：8(7)
母性保健看護・助産：8(5)	教養科目・専門関連科目：8(4)
精神保健看護：12(3)	地域保健看護：8(6)
在宅保健看護：9(3)	

3. 次年度に向けた課題

大学紀要、教育実践紀要への投稿およびシンセサイザーの参加を促進する方策を引き続き実施する。学術論文の質を向上させるために査読規程作成の検討をおこなう。

研究倫理審査委員会

1. 委員会構成

委員：◎赤嶺伊都子、○上原和代、金城忍、山口賢一、平良由香利
川津知大、吉田安規良、長嶺由次
事務局：与那嶺隆

2. 活動概要

(1) 研究倫理審査の審議

「公立大学法人沖縄県立看護大学研究倫理委員会規程」および「公立大学法人沖縄県立看護大学研究倫理委員会運営要領」に則して、研究倫理審査申請書一式（研究計画書を含む）を審査した。その際、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（新統合指針 2021）」（令和 3 年 4 月、令和 6 年 4 月一部改訂）を基本指針として参照した。

審査件数は計 16 件（一般審査 14 件、迅速審査 2 件）であり、承認件数は 13 件であった。令和 6 年度の審査はすべてオンライン（ZOOM）で行った。

(2) 外部委員との意見交換

審査のみで面談がない場合は、倫理審査における共通理解や他大学での取り組み等について外部委員との意見交換を行い、運営の効率化に務めた。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 申請内容が正確に記されていないことによる審査コメントが多い（研究倫理審査申請書および研究計画書）。指摘が多いコメントや、一般審査と迅速審査の判断、アウトアウトについてなど、共通理解をはかるため、遠隔を活用した申請者向けウェブ講習会の開催を検討し、実施する。

地域協働連携センター運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐久川政吉、鈴木ミナ子、牧内忍、長濱直樹、浦添美和、
事務局：花城亜由美、新元慎太郎

2. 活動概要

(1) 地域貢献活動

- ・与儀地区での小学校区まちづくり協議会：花壇整備・清掃活動，防犯パトロール隊，トックリキワタ祭り企画委員
- ・寄宮中学校：学習支援等のピアサポート。
- ・神原小学校：朝食支援の活動。
- ・学生ボランティア表彰者の推薦、地域等からのボランティア募集への対応・掲示等を行った。
- ・那覇市地域包括センター古波蔵との協働での高齢者の体力測定、介護予防教室開催。

(2) 子ども居場所学生ボランティアセンターとの協働

副センター長としての会議に参加し，学生への事前研修・有償ボランティアの登録・案内を行った。

(3) 公開講座として、「ハワイにおける災害看護と減災教育」、「地元創成看護学を沖縄で実装するための看護職の強みと課題」、「母と子に優しい防災ワークショップ」等、9回開催した。

3. 次年度に向けた課題

継続して、学生ボランティア（ピアサポーター、子ども居場所ボランティア等）の調整等の支援、教員・学生の与儀地区での地域貢献活動の推進、他機関との連携による活動、公開講座の企画等に努める。

沖縄島嶼保健看護協働センター

1. 委員会構成

委員：◎佐久川政吉、上原和代、浦添美和、瓜崎貴雄、大城真理子、玉城洋
知念久美子、知念真樹、西平朋子、宮里智子、山口初代（五十音順、敬称略）
アドバイザー：津波勝代、オブザーバー：神里 事務局：川上大

2. 活動概要

1) 地域貢献活動

(1) モデル地区（多良間村）での協働の計画・実施

- ・地域包括ケアシステムの住民会議を9回開催した。夏季休暇中に多良間村の文化理解と高齢者サポートのために9名の学生が参加した。また、多良間村主催で、本学学生を対象とした人材育成としたインターンシップ（4名）を実施した。
- ・島立ち後の課題として挙げた高校1年生・2年生への那覇近郊での大学生のピアサポート（うしゃぬふ うぐなーり cafe）を、多良間村の中学校・教育委員会・役場・在沖郷友会と協働で9回実施した。

(2) 「離島たびんちゅサークル」の活動

- ・島嶼でのマラソン大会（久米島、渡嘉敷島、伊江島、伊平屋島）を学生を中心に、地域との交流を兼ねながら、ボランティアとして参加した。

(3) 島嶼在住のがん患者の相談

- ・宮古島での乳がんに関する勉強会や、ピンクアドバイザー養成のためのサポートを行った。

2) 教育活動

(1) 島嶼に関する教育活動（教務委員会）、研究活動（研究・研修委員会等）の把握

- ・学部の学生実習として、「島嶼・国際保健看護実習」（渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、久高島、伊計島等）、「地域保健看護実習Ⅱ」（久米島、宮古島、石垣島等）等で展開し、目標値100人以上を達成した。

3) 研究活動

- ・研究班を立ち上げ、本学の25年間の研究論文等の収集や検討した。
- ・モデル地区（多良間村）での1年目の住民会議の活動をまとめた論文が学会誌に掲載された（日本ルーラルナース学会誌，20巻，2025年3月発行）。

3. 次年度に向けた課題

- ・モデル島（多良間村）での地域貢献活動では、多良間村との産学連携の締結、3年目になる住民会議と高校生へのピアサポート活動を広げていく必要がある。
- ・がん患者の相談、離島たびんちゅサークル（学生）等の推進に努める。
- ・その他、島嶼の地域貢献・教育・研究に関することを推進していく。

国際交流室運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、○山口賢一、知念真樹、大城真理子、浦添美和、池本温美
事務局：蔭久孝政

2. 活動概要

- (1) 台湾の学生を受け入れての沖縄研修
台北医学大学の学生 4 人と国立台北護理健康大学の学生 8 人を受け入れての初の合同沖縄研修を 7 月に実施した。
- (2) 国立台北護理健康大学の研修プログラムへの派遣
8 月に 8 人の学部学生を派遣した。
- (3) 台北医学大学の研修プログラムへの派遣
3 月に 4 人の学部学生を派遣した。
- (4) ハワイ大学カピオラニ校との交流協定締結
今年度協議を開始し 3 月に交流協定を締結した。次年度において学部学生の交換交流（受け入れと派遣）の実現に向けて準備を進めていく。
- (5) 海外で活躍するウチナーンチュナースとの交流
ハワイ大学で研究者として活躍している卒業生を招き、公開講座を実施した。
- (6) JICA 国際フェスティバルへの参加
JICA フェスティバルに 5 人の学生と 3 人の教員がブースを設営し参加した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) ハワイ大学との交流の在り方の見直し
参加費用の高騰のため学生がハワイ研修に参加できない状況となっている。ハワイ大学カピオラニ校と交流協定を締結したことから、ハワイ研修再開の実現に向けて学生が参加しやすいプログラムを検討していく必要がある。

教務委員会

1. 委員会構成

委員：◎賀数いづみ、○瓜崎貴雄、山口賢一、赤嶺伊都子、井上松代、
栗原幸子、知念真樹、鈴木ミナ子、山口初代、
補佐：知念久美子、星 敬子 佐次田早苗
事務局：上間 誠 与那嶺隆

2. 活動概要

- (1) 新カリキュラム（3年目）への円滑な移行と現行（旧）カリキュラムの適切な運営
 - ・新カリキュラムの新設科目の継続開講及び4年前期から3年次後期に変更した実習科目を適切に開講した。
 - ・「令和3年度以前の入学生（旧カリ学生）の履修方針」に基づいて旧カリキュラム学生の履修計画を検討した。
- (2) 島嶼環境を活かした教育活動の推進（島嶼モデル型実習の充実）
- (3) 成績評価システムの充実
 - ・4年次学生へ学位授与方針（DP）の自己評価と学習環境への満足度調査を実施した。教務関連事項は対応を検討し、今後の改善に活かせるよう学生及び教員に文書で周知した。
 - ・授業方法について科目責任者へ調査し、多様な授業方法の実施状況を確認した。
- (4) 学位授与方針に沿った卒業判定と専門職資格の取得支援
 - ・履修規程に基づいて卒業判定を行った。
 - ・特別講義についてニーズ調査を学生に実施し、希望の多い内容をテーマに実施したが、開催時期が12月で学生の参加者が少なかったため次年度は前期に開催することを決定した。
 - ・合理的配慮部会の決定にしたがって協力した。
- (5) 教育情報の適切な公表
 - ・大学の目的、理念、新しい3つのポリシーについて新年度ガイダンス、教職員連絡会議、新入職員オリエンテーションの機会に学生・教職員へ周知した。
 - ・教育情報（授業科目、授業方法、内容、年間授業計画、学習の成果に係る評価基準）について、学生便覧、UNIVERSAL PASSPORT（UNIPA）（Web シラバス）、ホームページで公表した。
 - ・個々の学生が各学期の成績が確認できるよう UNIPA で公表し、成績不服申し立ての受付案内や結果の通知を、UNIPA を通して学生に周知した。
- (6) カリキュラムの適切な運営
 - ・授業評価アンケートの実施要項を周知し各科目の授業評価アンケートを実施した。

- ・非常勤講師の授業の出欠確認のサポート、非常勤講師（教養・専門教養科目）のサポートと対応を適時実施した。
- ・教養科目の履修理解に向け、新入生ガイダンス及び新学期ガイダンスで教養科目の意義を説明した。
- ・新年度ガイダンスは在学生には資料を事前配信し、学生委員会が示したスケジュールに則り、対面で実施した。

(7) 単位の実質化

- ・カリキュラム移行に伴い、1～3 年次は新カリキュラム、4 年次は現行（旧）カリキュラムの令和 6 年度時間割に則り授業展開した。

(8) 臨地実習指導体制の整備→「実習専門部会」活動報告書参照

実習専門部会と協働連携し、実習指導体制の整備に必要な①実習施設との連携、②学生の準備性支援、③実習の継続と安定性の確保について遂行した。

(9) 統合科目を効果的に実施する

- ・「卒業論文」「看護総合演習」の学習成果発表会をハイブリッドで開催した。
- ・「卒業演習」の技術試験についてスケジュールを見直し、効率的に実施した。

(10) 海外留学生の受け入れ

- ・台湾の大学担当者と単位互換について話し合ったが具体的なプログラム案策定には至っていない。

(11) 教育施設・設備を効率的に活用する

- ・UNIPA の履修登録エラー集を作成し、新学期ガイダンス資料で学生に周知した。

(12) 教員・教育補助者・教育嘱託員の教育力を高めるための教育指導体制の整備

- ・看護教育支援専門員は定数を配置できていなかったが、勤務日数や期間を柔軟にして実習指導教員が不足する科目に対応できた。
- ・前年度の教育活動&交流会での意見をもとに 1 つのテーマで教員間の意見交換会を開催した。

(13) 授業評価アンケートの回答率向上のため事務局主導で授業科目を抽出し、UNIPA による授業評価アンケートを試行した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 新カリキュラムにおける 4 年次新設科目（島嶼・国際保健看護、在宅保健看護演習、在宅保健看護実習）の円滑な実施と旧カリ学生等の履修計画を適切に実施する。
- (2) 島嶼環境を活かした教育活動の実施と評価、課題の明確化を行っていく。
- (3) 授業評価アンケートの回収率の向上をはかり、授業改善に活かす。

実習専門部会

1. 委員会構成

委員：◎栗原幸子、○鈴木ミナ子、山川和歌子、伊波良剛、岡崎実子、下中壽美、宮城裕子、山口初代、永野佳世、池本温美

2. 活動概要

(1) 令和6年度実習連絡調整会議の運営

令和6年4月に実習連絡調整会議をオンラインで開催した。第一部の参加者は62名（52施設）、第二部は37名（27施設）であった。全員オンライン参加としたため、運営はスムーズであった。また、第二部の意見交換会の成果として報告書をパンフレット形式で作成して次年度の会議の案内とともに郵送し、情報共有を行った。

(2) 実習受け入れ施設との連携調整

窓口教員を中心に、実習施設の要望にタイムリーに応じながら、臨地での実習を推進した。窓口教員が調整した事項は、適宜、各領域の実習専門部会員および科目責任者へ共有され、大きなトラブルなく臨地実習が行われた。

(3) 教員の实習前研修計画一覧表の作成

教員の実習前研修計画一覧表を作成し、年度初めに一括して研修依頼文書を該当施設へ発送した。計画通り教員の事前研修を行うことができた。

(4) 実習におけるインシデント・アクシデント情報の把握と関係者との共有

実習に関連したインシデント・アクシデントの報告・情報共有は円滑に行われ、再発を防ぐための対策を行った。

(5) 学生の実習進捗状況の把握と教員、実習施設間の情報共有

毎月の会議にて各実習における学生の実習進捗状況は適切に共有された。実習中の防寒具について、各実習科目で対応している現状があること、学生から大学として統一した見解を求める要望があったことを共有した。また、「実習のあしあと」について教員・学生を対象にアンケート調査を行い、学生と実習指導教員とのコミュニケーションツールとして活用されていることが確認された。個別面談時間の確保が難しい科目がある中でも継続して活用できるよう、各実習オリエンテーションでの丁寧な説明と、学生が自主的に振り返って記録できるよう使用方法の改訂を行った。第1段階実習の評価項目の見直しが必要という意見があり、今後も検討が必要である。

(6) 実習の手引きの作成

経費削減のため業者委託による製本を廃止し、学内の印刷機で作成した。ページ番号や印刷内容の誤りがないよう、全頁を連結した PDF データを作成し、印刷を担当する学務課担当者と完成イメージを入念に打ち合わせするなど実習専門部会・学務課担当者共に尽力し、各実習の手引きは計画通りに作成できた。

(7) 予防接種マニュアルの運用と教務委員会、学生委員会との連携

実習の事前準備に必要な情報の把握（予防接種状況など）は、役割分担に合わせて、適切なタイミングで遂行された。本学の実習前提条件とは異なる予防接種の基準を設けている実習施設があったことから、今後も実習先と情報交換しながら適宜対応していく必要がある。

(8) 令和 7 年度実習計画の作成

令和 7 年度は 4 年生が新カリキュラムに移行することをふまえて、各実習科目の展開に必要な実習施設を確保した。

(9) 令和 7 年度実習連絡調整会議の企画提案

実習施設からの参加のしやすさを考慮し、令和 7 年度も Zoom による遠隔開催で行うこととした。後半企画は、前年度参加者からのアンケート結果をふまえて討議テーマを 2 つ設定した。

(10) 令和 7 年度実習専門部会業務マニュアルの更新

新カリキュラムに伴う実習時期・内容の変更について加筆修正し、新年度用に更新した。

3. 次年度に向けた課題

次年度は 4 年次が新カリキュラムへ移行するため、実習時期・内容の変更に留意し実習施設との調整等を行う必要がある。また、実習中に着用する防寒具など実習着に対する統一した見解を明文化し、学生・教員へ提示することを検討する。「実習のあしあと」について、有効活用されるように、第 1 段階実習の評価項目の見直しなど引き続き検討する。手引き作成が学内印刷となり実習専門部会員・学務課担当者の負担が大きいため、手引きのスリム化等対策を講じる必要がある。実習受け入れ条件となる予防接種の基準について、適宜実習施設との情報交換を行い対応する。

学生委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城忍、○牧内忍、山口賢一、山城綾子、栗島一博、西平朋子、
山川和歌子、天久いつ子
事務局：与那嶺隆、松田美琴

2. 活動概要

(1) 学生への支援

離島実習参加学生の交通費、宿泊費の負担、特定実習施設における追加ワクチン接種費用の負担等を軽減するため、後援会において助成を拡充した。さらに、研究・福利棟1階ラウンジで学生が憩えるようにするため、仕切りとエアコンを設置した。また、国試対策に向けて、成績が芳しくない学生を対象に講義室を確保し、4年次部会が中心となり、講義室への巡視、出席確認、進捗状況の確認等サポートを行った。

(2) 離島・過疎地域推薦選抜の新入学生への支援

離島・過疎地域推薦選抜の新入学生支援のため、必要な情報を担当教員へ伝達する仕組み及び指導体制を構築し、学生支援を実施した。

(3) グループ担当学生への面談の実施

グループ担当教員は担当学生の学修支援、生活支援を目的に面談を実施した。

(4) 沖縄県看護学術財団奨学生推薦候補者の選考の実施

沖縄県看護学術財団奨学生推薦候補者の選考を行い、10名を推薦、各10万円の奨学金を受給した。

(5) 経済的支援について

給付型の奨学金等、学生にとってメリットの大きい経済的支援制度を把握している困窮者へ情報提供を行った。その他財団の奨学金等の情報は、全学生向けに掲示コーナーへ掲示した。

(6) (仮) 学生支援センター設置の基本方針に基づいた支援内容の追加検討

学生支援センター検討ワーキンググループにて、支援内容の整理を行った。本大学のHPに「学生支援一覧」というバナーを掲載し、具体的な支援者、窓口、様式書類等が得られるようなページを作成した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 継続して、学生会活動（実習着リサイクル、学生交流、看護大学祭等）への支援、グループ担当学生の支援、学生の経済的困窮度の把握および支援に努める。
- (2) 多くの部署や委員会で行っている支援内容について、学内向けに情報共有の方法を明確にしていく必要がある。
- (3) 学生の懲戒処分の標準例の運用に伴う課題に対応していく必要がある。

学術情報委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、○大城真理子、栗島一博、与那嶺隆、神里亜美（委員長補助）
事務局：三宅千穂

2. 活動概要

(1) 資料の購入

購入希望資料調査をおこなってニーズを把握しながら、購入する資料の選定を進めた。

(2) 企画展示の実施

10件の標準展示企画ならびに7件のミニ企画を実施した。

(3) 大学公式ウェブサイトの改善

大学情報の発信を強化するために、今年度より大学公式ウェブサイト運営委員会（附属図書館長が委員長）を発足させ、各部署の代表を情報や意見を共有しながら、ウェブサイトの改修を進めた。業者委託によりトップページの修正を行ったほか、各部署に編集権限を付託するプログラムの作成を行った。

3. 次年度に向けた課題

(1) 図書館関連予算編成方針の見直し

海外電子ジャーナルの利用料金が毎年高騰していることに対応するために、限られた財源の有効な利用について検討する必要がある。

(2) 「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」の充実

令和6年度はボランティアのワーキンググループによる史料の整理が進められたが、令和7年度は公開する史料情報を追加して充実させていく必要がある。

(3) 大学公式ウェブサイトの発信力強化

令和7年度は各担当部署においてコンテンツの点検と修正を進めていく予定である。

別科助産専攻運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎西平朋子、○賀数いづみ、大城早苗、嘉陽田友香、井上松代

事務局：与那嶺隆

2. 活動概要

(1) 令和6年度の行動計画評価の実施と令和7年度の行動計画の策定

令和6年度の行動計画の評価を行い、課題や改善項目に基づき令和7年度の行動計画を策定した。

(2) 別科助産専攻における人材育成を達成するための事項

令和6年度入学生18人の修了判定を行った。18人が修了となった。

(3) 実習施設との協働した実習指導環境および指導体制の充実するための事項

①実習連絡会議の企画・実施

予定通り2回実習連絡会議を実施した。実習の課題や改善に向けて建設的な意見交換や情報共有の場となった。

②助産実習施設の確保

令和6年度は予定通り入学生18人の実習施設を確保した。令和7年度は定員20人の実習施設を確保した。

(4) 助産学専攻科開設に向けた活動

助産学専攻科開設に向けて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）（案）、シラバス（案）を作成した。

(5) 学生の学習支援・就職支援のための事項

18人全員が助産師国家試験に合格した。また県内就職率は94.4%（18人中17人）であった。

(6) 入学生確保のための事項

入学試験委員会と協働による入試説明会を行った。令和7年度入学希望者29人の参加があった。修了生が作成したDVDの活用や在校生による相談ブース、在校生18人の受験に向けた取り組みを紹介するコーナーを設けるなどの工夫を行った。

3. 次年度に向けた課題

(1) 関係機関や実習施設との協働による実習環境および指導体制の充実

①入学定員20人の実習施設の安定的確保

分娩件数や分娩取扱い施設の減少等に伴い入学定員数の実習施設確保が困難な状況が続いているため、関係機関と協力しながら施設の確保に努める。

(2) 別科助産専攻における教育の充実

①看護教育支援専門員等指導者の安定的確保

②別科助産専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の案を作成する。

③助産学専攻科設置に向けた取り組みを継続する（本学在校生ならびに卒業生に対する受験者の確保に向けた取り組み、シラバスの見直し、実習施設の確保など）。

研究科教務委員会

1. 委員会構成

委員：◎宮里智子、○上原和代、田場由紀、謝花小百合

事務局：赤嶺洋哉

2. 活動概要

(1) 大学院教育の実施体制の強化に関する事項

- ①大学院博士前期課程の研究指導教員 3 名、研究指導補助教員 3 名、博士後期課程の研究指導教員 1 名、および、科目担当教員 8 名の審査を実施し、教育実施体制の充実を図った。
- ②沖縄県立看護大学、琉球大学、名桜大学の 3 大学間の単位互換協定を締結した。
- ③隔年開講としている科目の履修を希望している院生がいたことから、協定校で履修できるよう調整した。院生は希望どおり科目を履修し、単位を取得できた。
- ④令和 7 年 7 月に日本看護系大学協議会のプライマリ・ケアの高度実践看護師教育課程の更新申請を行うために、他の大学院より情報収集を行い、実践島嶼保健看護教育課程の見直しを進めた。
- ⑤研究指導能力の向上のための FD 研修を実施した。
テーマ：「混合研究法」
日時：令和 6 年 8 月 21 日（水）15 時～16 時 30 分
場所：大講義室（zoom オンラインあり）
参加者：学内 32 名（教員 30 名/65.2%）、大学院生 4 名、学外 10 名

(2) 質の高い人材育成を達成するための事項

- ①研究指導を集団で行うなど組織的に教育課程を実施しており、予定どおり前期課程 6 名の修了生を輩出した。
- ② 高度実践看護師教育課程の開講計画を見直した。志願者は 6 名（実践小児看護 2 名、実践老年看護 4 名）であり、受験を辞退した 1 名を除く 5 名が受験し、4 名の入学予定者を確保した（実践小児看護 2 名、実践老年看護 2 名）。
- ③論文執筆マニュアルを見直しについて十分に進めることができなかった。

(3) 教育の充実を達成するための事項

- ①指導教員間の情報交換により個々の学生の学修の進捗状況を把握したところ、修士論文や博士論文の初稿提出、指導、中間発表会、最終稿提出までの期間が短く、論文の修正を行う時間を確保することが困難であった。そのため、次年度以降の論文執筆と指導に関連するスケジュールの見直しを行った。

②英語科目を新設し、英語試験を課さない新入学試験を受験して入学する予定の学生が入学後に英語を学習できるよう、学習環境を整備した。

(4) 大学運営の効果的な実施を達成するための事項

院生カンファレンスや学生アンケートにより院生より評価を得た。院生からは、教育課程に関する改善の要望はなかったが、院生室のパソコンを有線 LAN から学内 Wi-Fi につなげてほしい、個人のパソコンから院生室の印刷機へ印刷できるようにしてほしいなど学習環境の改善に関する要望があったことから、適宜対応した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 新たに研究指導教員、研究指導補助教員となった教員の研究指導状況の把握と支援を行う。
- (2) プライマリ・ケアの高度実践看護師教育課程の更新申請後に、大学院生募集を開始し、受験生を確保する。
- (3) 高度実践看護師教育課程を適切に開講する。
- (4) 論文執筆マニュアルの充実を図る。
- (5) 新設した英語科目の開講と評価を行う。

研究科入学試験委員会

1. 委員会構成

委員：◎宮里智子、○上原和代、田場由紀、謝花小百合

事務局：比嘉和之

2. 活動概要

(1) 学生の確保を達成するための事項

- ①大学院リーフレットを発行し、学生募集の広報を行った。
- ② 令和6年6月2日（日）に、大学院受験予定者等を対象に英語学習方法に関する学び直し勉強会を開催し、3名が受講し、うち2名が受験した。
- ③ 令和6年6月14日（金）に、学生募集説明会を、対面と遠隔のハイブリッドで行った。会場参加10名、遠隔参加5名の合計15名が参加した。昨年度よりも参加者数は2名増加し、特に、遠隔での参加が3名増えた。募集説明会に参加した15名のうち7名が受験した。
- ④ 学部全学年を対象に学生募集説明会の広報を行った。特に、学部の新4年生を対象に、大学院修了生の経験談を聞く機会を設けた。6月14日に開催した学生募集説明会に学部4年生3名が参加し、うち1名が受験し、入学予定となった。
- ⑤ 前期課程の入学試験について、高度実践看護師教育課程、および、島嶼枠の受験者の合計6名に対して、英語試験を課さない新入学試験を実施し、5名の入学予定者を確保した。
- ⑥ 上記5名と英語試験を課す従来の枠の入学予定者2名を加え、合計7名の入学予定者を確保した。
- ⑦ 実習施設の看護管理者を対象に、施設における人材育成のニーズに関する聞き取り調査を実施した。その結果、困難事例の検討会での教員を交えてのディスカッションや研究支援を受けるなどのニーズがあることが分かった。

(2) 適切に入学試験を行うための事項

- ① 作問チェックリストに沿った作問の体制を整え、入学者選抜試験問題の標準化を図った。
- ② 実施要領に基づき、円滑に試験を実施することができた。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 学部教育から大学院教育への接続を促進するために、入学試験の方法を検討する。
- (2) 大学の各領域が開催しているゼミ活動などに関する情報を施設に提供し、施設や地域の看護職と大学がつながる場をつくるとともに、大学院進学を動機づける機会を

つくる。

IR ワーキンググループ

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、栗島一博

2. 活動概要

(1) 学生定期実態調査の実施

年度初めに学生に対して実態調査を実施した。通学手段やアルバイトなどの生活実態調査や健康面に関する調査、大学に対する満足度などの調査を実施した。

(2) 教員意識調査

教員を対象に、大学全体及び教員自身における教育・研究・職場の状況についてどのように考えるか意識調査を行った。

(3) 学生の GPA の入試選抜枠比較分析

今年度在籍する全学部学生の GPA を用いて、入学後の成績の入試選抜枠間の差を検証するための比較分析を実施した。

(4) ワーキンググループの委員会への格上げ

今後 IR 活動をさらに強化するために担当委員会設置の準備を行った。

3. 次年度に向けた課題

(1) IR 分析情報の収集・蓄積体制の構築

教務支援システムの中に情報を集積していく予定であるが、成績以外の情報の収納が進んでいないことから、実施体制を検討する必要がある。

沖縄県立看護大学 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧(令和5年度)

No.	研究種目	課題番号	研究課題名	研究代表者名	部局名	研究期間	研究費総額
1	基盤研究(C)	18K00876	アメリカのリーディングプログラムと多読図書の効果的導入に関する研究	山城 綾子	看護学部	2018年度～2023年度	3,510,000円
2	基盤研究(C)	18K10438	DV被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価	井上 松代	保健看護学研究科	2018年度～2023年度	4,420,000円
3	基盤研究(C)	19K10809	看護学生のシビリティー(civility)を育むアクションリサーチ	金城 芳秀	保健看護学研究科	2019年度～2023年度	4,420,000円
4	基盤研究(C)	19K11172	島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—	野口 美和子	保健看護学研究科	2019年度～2023年度	4,160,000円
5	基盤研究(C)	19K11281	小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案	田場 由紀	看護学部	2019年度～2023年度	4,030,000円
6	基盤研究(C)	20K10668	小離島勤務保健師へのICTを活用した継続教育プログラムの開発	知念 真樹	看護学部	2020年度～2023年度	2,080,000円
7	基盤研究(C)	20K10916	10代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証	賀数 いづみ	看護学部	2020年度～2023年度	3,380,000円
8	基盤研究(C)	20K10945	助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発	下中 壽美(前盛壽美)	看護学部	2020年度～2023年度	4,160,000円
9	基盤研究(C)	21K10725	孤立型離島に居住する糖尿病患者の心理的自己管理促進要因の探求的研究	宮城 裕子	看護学部	2021年度～2023年度	3,510,000円
10	基盤研究(C)	21K10945	IPV被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用	赤嶺 伊都子	保健看護学研究科	2021年度～2023年度	4,160,000円
11	基盤研究(C)	22K10710	太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築	神里 みどり	保健看護学研究科	2022年度～2024年度	4,160,000円
12	基盤研究(C)	22K10860	救急医療に携わる看護師向けの自殺未遂患者に対する看護教育プログラムの開発と評価	瓜崎 貴雄	看護学部	2022年度～2024年度	2,600,000円
13	基盤研究(C)	22K11123	自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造	大湾 明美	保健看護学研究科	2022年度～2024年度	2,210,000円
14	基盤研究(C)	22K11210	へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援	田場 由紀	看護学部	2022年度～2024年度	2,470,000円
15	基盤研究(C)	22K11268	琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出	佐久川 政吉	看護学部	2022年度～2024年度	2,340,000円
16	基盤研究(C)	23K10244	継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—	山口 初代	看護学部	2023年度～2025年度	1,820,000円
17	基盤研究(C)	23K10270	要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成	砂川 ゆかり	看護学部	2023年度～2025年度	1,690,000円
18	基盤研究(C) (一般)	23K10149	IPV被害者発見尺度によるIPV被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用	新城正紀	看護学部	2023年度～2025年度	4,550,000円
19	若手研究	18K17573	日本語版退院準備性尺度親用の実用化と海外への発信	上原 和代	看護学部	2018年度～2023年度	1,820,000円
20	若手研究	19K13886	日本による沖縄・台湾の植民統治における近代医療施設役割	山口 賢一	看護学部	2019年度～2023年度	3,380,000円
21	若手研究	19K19538	リフレクションを取り入れた看護技術演習プログラムの構築	栗原 幸子	看護学部	2019年度～2023年度	1,560,000円
22	若手研究	22K17476	外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発	源河 朝治	看護学部	2022年度～2024年度	2,080,000円
23	若手研究	23K16420	実装科学に基づいた乳がんの受診遅延ハイリスク者を特定するスクリーニング指標の作成	大城 真理子	看護学部	2023年度～2025年度	4,420,000円
24	若手研究	23K16475	沖縄県の現状に即した思春期・青年期版ベアレント・トレーニングの開発に関する研究	鈴木 ミナ子	看護学部	2023年度～2027年度	4,680,000円

沖縄県立看護大学 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧(令和6年度)

No.	研究種目	課題番号	研究課題名	研究代表者名	研究期間	研究費総額
1	基盤研究(C)	19K11281	小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案	田場 由紀	2019年度～2024年度	4,030,000円
2	基盤研究(C)	20K10916	10代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証	賀数 いづみ	2020年度～2024年度	3,380,000円
3	基盤研究(C)	20K10945	助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発	下中 壽美(前盛壽美)	2020年度～2024年度	4,160,000円
4	基盤研究(C)	21K10725	孤立型離島に居住する糖尿病患者の心理的自己管理促進要因の探求的研究	宮城 裕子	2021年度～2024年度	3,510,000円
5	基盤研究(C)	21K10945	IPV被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用	赤嶺 伊都子	2021年度～2024年度	4,160,000円
6	基盤研究(C)	22K10710	太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築	神里 みどり	2022年度～2024年度	4,160,000円
7	基盤研究(C)	22K10860	救急医療に携わる看護師向けの自殺未遂患者に対する看護教育プログラムの開発と評価	瓜崎 貴雄	2022年度～2024年度	2,600,000円
8	基盤研究(C)	22K11123	自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造	大湾 明美	2022年度～2024年度	2,210,000円
9	基盤研究(C)	22K11210	へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援	田場 由紀	2022年度～2024年度	2,470,000円
10	基盤研究(C)	22K11268	琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出	佐久川 政吉	2022年度～2024年度	2,340,000円
11	基盤研究(C)	23K10149	IPV被害者発見尺度によるIPV被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用	新城 正紀	2023年度～2025年度	4,550,000円
12	基盤研究(C)	23K10244	継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—	山口 初代	2023年度～2025年度	1,820,000円
13	基盤研究(C)	23K10270	要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成	砂川 ゆかり	2023年度～2025年度	1,690,000円
14	基盤研究(C)	24K05745	島嶼看護経験の語りを用いたノンフォーマル教育によるキャリア形成支援法の開発	栗島 一博	2024年度～2026年度	4,020,000円
15	基盤研究(C)	24K13633	Z世代の看護学生の学生から看護専門職への移行の経験と移行支援プログラムの検討	宮里 智子	2024年度～2028年度	1,880,000円
16	基盤研究(C)	24K13843	外来通院中の冠動脈疾患患者の不眠に対する睡眠衛生教育アルゴリズムの開発	平良 由香利	2024年度～2026年度	5,000,000円
17	基盤研究(C)	24K13933	IPV被害母子の支援および加害者対策における看護職者の協働・連携への取り組み	井上 松代	2024年度～2026年度	4,999,000円
18	若手研究	19K13886	日本による沖縄・台湾の植民統治における近代医療施設の役割	山口 賢一	2019年度～2024年度	3,380,000円
19	若手研究	19K19538	リフレクションを取り入れた看護技術演習プログラムの構築	栗原 幸子	2019年度～2024年度	1,560,000円
20	若手研究	22K17476	外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発	源河 朝治	2022年度～2024年度	2,080,000円
21	若手研究	23K16420	実装科学に基づいた乳がんの受診遅延ハイリスク者を特定するスクリーニング指標の作成	大城 真理子	2023年度～2025年度	4,420,000円
22	若手研究	23K16475	沖縄県の現状に即した思春期・青年期版ペアレント・トレーニングの開発に関する研究	鈴木 ミナ子	2023年度～2027年度	4,680,000円

沖縄県立看護大学 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧(令和7年度)

No.	研究種目	課題番号	研究課題名	研究代表者名	研究期間	研究費総額
1	基盤研究(C)	22K10710	太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築	神里 みどり	2022年度～2024年度	4,160,000円
2	基盤研究(C)	22K11123	自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造	大湾 明美	2022年度～2024年度	2,210,000円
3	基盤研究(C)	22K11210	へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援	田場 由紀	2022年度～2024年度	2,470,000円
4	基盤研究(C)	22K11268	琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出	佐久川 政吉	2022年度～2024年度	2,340,000円
5	基盤研究(C)(-)	23K10149	IPV被害者発見尺度によるIPV被害者スクリーニングと心理的アセスメントへの活用	新城 正紀	2023年度～2025年度	4,550,000円
6	基盤研究(C)	23K10244	継続看護による要介護高齢者が就労する支援の普及—介護予防から就労の場への協働—	山口 初代	2023年度～2025年度	1,820,000円
7	基盤研究(C)	23K10270	要介護高齢者の社会貢献への支援を推進する看護実践ガイドの作成	砂川 ゆかり	2023年度～2025年度	1,690,000円
8	基盤研究(C)(-)	24K05745	島嶼看護経験の語りを用いたノンフォーマル教育によるキャリア形成支援法の開発	栗島 一博	2024年度～2026年度	4,020,000円
9	基盤研究(C)(-)	24K13633	Z世代の看護学生の学生から看護専門職への移行の経験と移行支援プログラムの検討	宮里 智子	2024年度～2028年度	1,880,000円
10	基盤研究(C)(-)	24K13843	外来通院中の冠動脈疾患患者の不眠に対する睡眠衛生教育アルゴリズムの開発	平良 由香利	2024年度～2026年度	5,000,000円
11	基盤研究(C)(-)	24K13933	IPV被害母子の支援および加害者対策における看護職者の協働・連携への取り組み	井上 松代	2024年度～2026年度	4,999,000円
12	基盤研究C	25K13737	小離島に就職した新卒保健師のキャリア形成プロセスとその支援モデルの開発	知念 真樹	2025年度～2026年度	3,120,000円
13	基盤研究C	25K13764	Civility Exemplar Club onlineによる看護教育資源の開発	金城 芳秀	2025年度～2027年度	4,160,000円
14	基盤研究C	25K14021	慢性疾患のあるIPV被害女性のセルフケアの認識と対処行動および生物心理社会的支援	赤嶺 伊都子	2025年度～2028年度	4,550,000円
15	若手研究	22K17476	外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発	源河 朝治	2022年度～2024年度	2,080,000円
16	若手研究	23K16420	実装科学に基づいた乳がんの受診遅延ハイリスク者を特定するスクリーニング指標の作成	大城 真理子	2023年度～2025年度	4,420,000円
17	若手研究	23K16475	沖縄県の現状に即した思春期・青年期版ペアレント・トレーニングの開発に関する研究	鈴木 ミナ子	2023年度～2027年度	4,680,000円
18	若手研究	25K20716	頭頸部がんサバイバーへの晩期有害事象の早期スクリーニングとセルフマネジメント支援	源河 朝治	2025年度～2029年度	4,030,000円
19	若手研究	25K20717	終末期重症心不全患者の長期在宅補助人工心臓治療に伴う在宅看護ケアの開発	永野 佳世	2025年度～2029年度	2,860,000円